

# MFZ-HK シリーズ 施工関連参考資料

## — もくじ —

1. はじめに(概要).....	2
2. 新規設置.....	3
3. 既存製品からの入替(リニューアル)設置.....	4
4. 施工関連資料(詳細).....	5
5. 再利用可能な部材.....	5
6. 当社過年度床置製品等からの入替(リニューアル)要領.....	6
★ リニューアルポイント ★ .....	7～8
■配管・配線リユースチェック.....	9

### 資料 1

据付工事説明書 .....	資料 1 - 1 ～ 8
---------------	--------------

### 《 別売部品 》

#### 資料 2

##### フローアビルトイン用ダクトセット (MAC-760FD)

仕様書 .....	資料 2 - 1
据付工事説明書 .....	資料 2 - 2 ～ 5

#### 資料 3

##### 床置形用壁掛金具 (MAC-300BP)

仕様書 .....	資料 3 - 1
据付工事説明書 .....	資料 3 - 2 ～ 3

#### 資料 4

##### 床置用ドレンアップメカ (MAC-862DM)

仕様書 .....	資料 4 - 1
据付工事説明書 .....	資料 4 - 2 ～ 5

#### 資料 5

##### 置台 (MAC-311TD)

仕様書 .....	資料 5 - 1
据付工事説明書 .....	資料 5 - 2 ～ 5

#### 資料 6

##### 背面パネル (MAC-316HP)

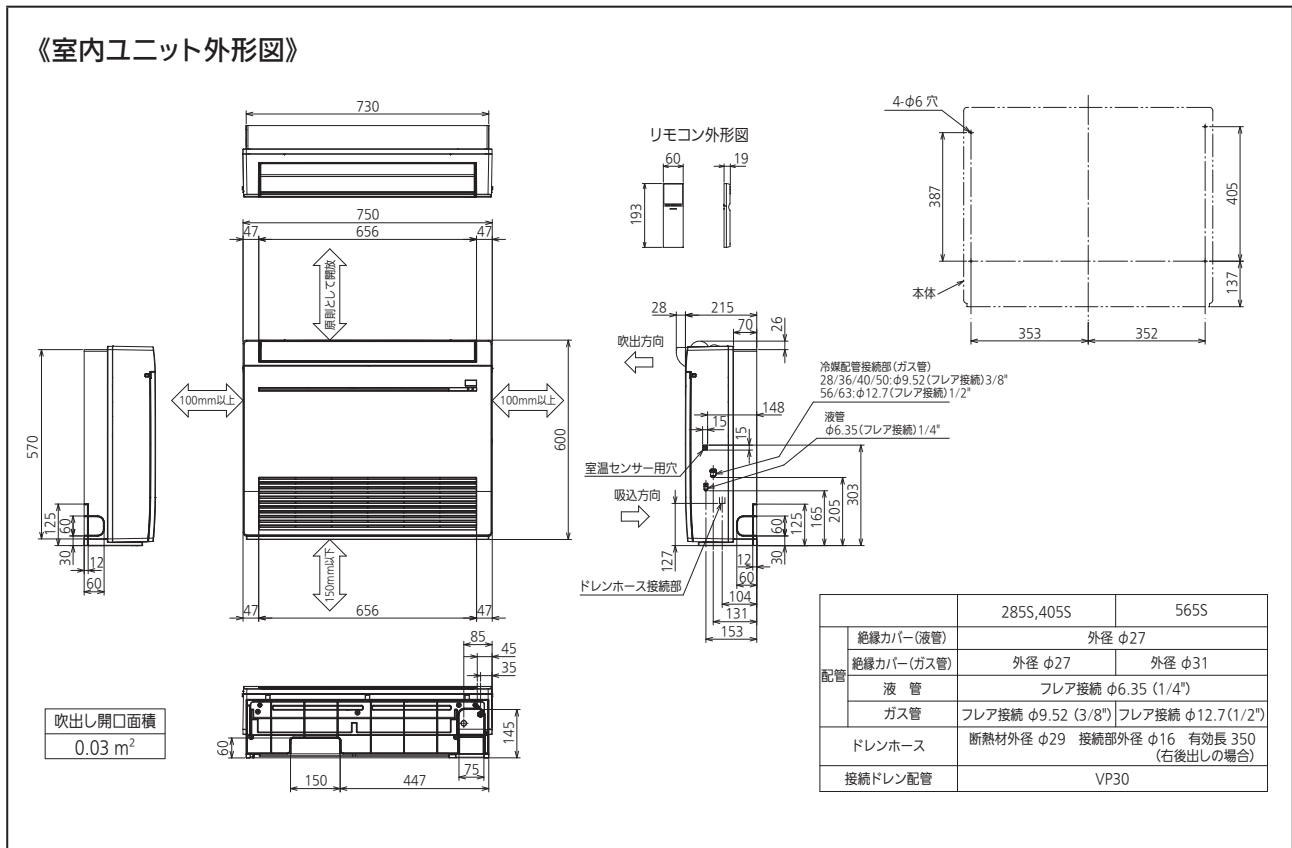
仕様書 .....	資料 6 - 1
据付工事説明書 .....	資料 6 - 3 ～ 10

# 1. はじめに (概要)

MFZ-HK シリーズは新規設置、既存製品からの入替が可能な製品として開発された住宅用床置形エアコン(寒冷地向けシリーズ)で、前モデルと同一色調のホワイトモデルと若干こげ茶色を強めたダークブラウンモデルをご用意しています。

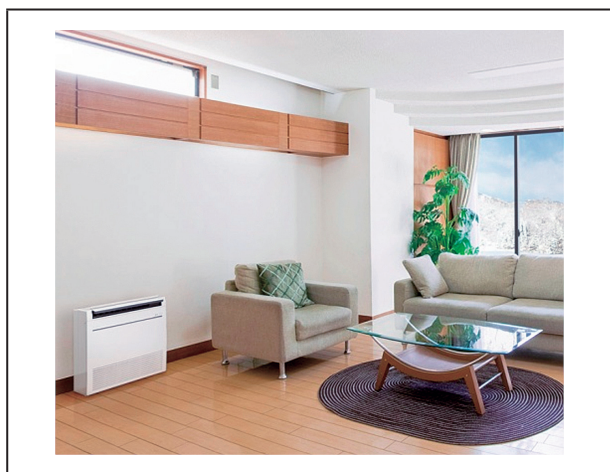
ホワイト (W形)	ダークブラウン (B形)	前パネル取外時外観
		
マンセル No : 1.0Y 9.2/0.2 ⇒日塗工 No : 7.5Y9/1 (C27-90B) 相当	マンセル No : 4.8YR 2.6/0.4 ⇒日塗工 No : 5YR2/1 (C15-20B) 相当	プラチナエアフィルター配置

吹出し口は、前モデルと異なり室内ユニット上部からのみになります。また風向フラップはリモコンにより角度変更が可能な仕様で、上方向と下方向の最大突出し寸法は、下記外形図のように上方向 26mm、下方向 28mm です。

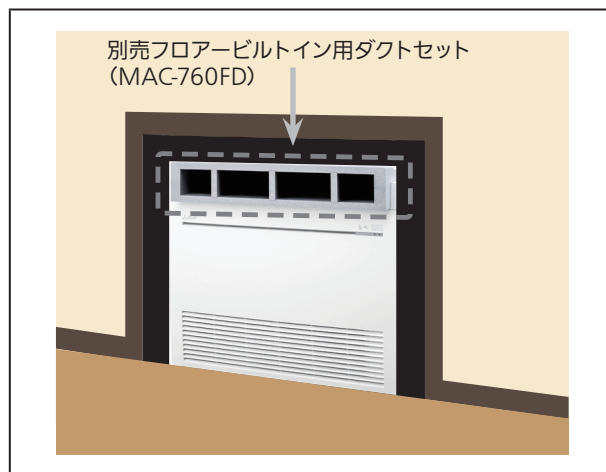


## 2. 新規設置

MFZ-HK シリーズは<図1>の様な標準設置の他、ビルトイン用ダクト（別売フローアールビルトイン用ダクトセット）を使用すれば<図2>の様な隠蔽設置も可能です。

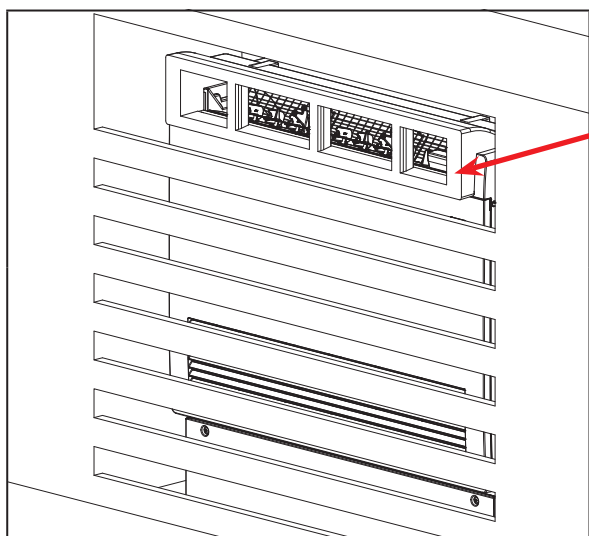


<図1>標準設置事例

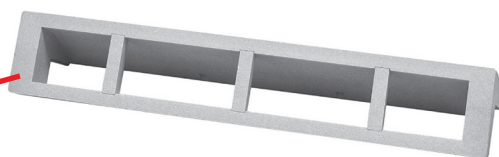


<図2>隠蔽設置事例

なお、隠蔽設置時の前面格子等は結露、温度分布悪化等の不測事態を招く可能性があることから、当社としてはお勧めできかねますので別売部品等をご用意していませんが、自己責任で作成される方のために必要最小開口率を記載しましたので、参考にしてください。（<図3> 詳細は別売フローアールビルトイン用ダクトセット据付工事説明書を参照してください。[資料2]）



<図3>隠蔽前面格子設置事例（ドレンアップメカ使用）



別売フローアールビルトイン用ダクトセット  
(MAC-760FD) \*隠蔽設置時は取付必須

- 格子等を取付ける場合は、以下をお守りください。但し、格子等の不備で、不測事態が発生しても弊社では責任を負いかねます。
  - ①吹出し部に専用の別売フローアールビルトイン用ダクトセットを取付けること。
  - ②開口率は75%以上を確保すること。  
(吹出し口、受信部を塞がないでください。受信部の位置は据付工事説明書をご覧ください。)



<図4>床置形用壁掛金具使用設置事例

また、室内ユニットを浮かして設置（最大 150mm）したい場合のために、別売床置形用壁掛金具もご用意しています。

※床から 150mm 以上、上に設置すると暖房の風が床面に届かない可能性があります。

※室内ユニットと壁は必ず固定してください。



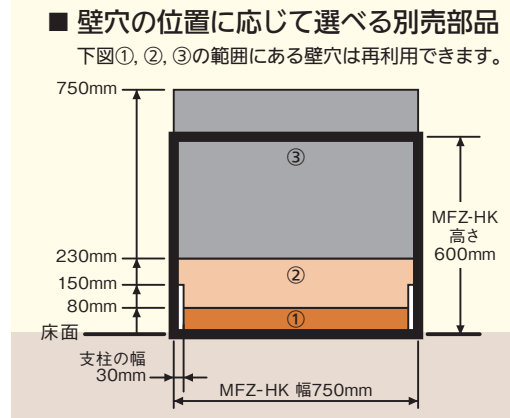
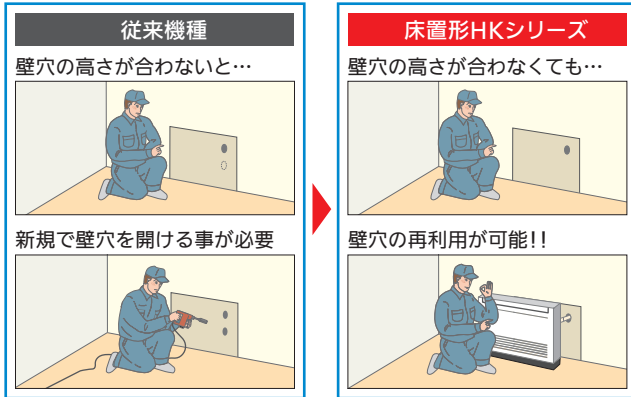
別売床置形用壁掛金具 (MAC-300BP)

### 3. 既存製品からの入替（リニューアル）設置

別売の床置用ドレンアップメカ、置台、背面パネル等を適宜取り付けることにより、一定の高さまでの既存穴を利用した排水も可能です。置台内部にドレンアップメカを設置することもできます。

#### 様々な設置パターンに対応できる 高い施工性を実現

これまでの床置形はクリーンヒーターからの入替えの際、既存の壁穴をふさぎ、新規で穴を開けるなどの工事が必要でした。HKシリーズでは、設置パターンに合わせて別売部品などを使用することで、壁穴の再利用が可能※です。建物への追加工事もなくなるため、より短期間の施工で、美しい仕上がりの入替えが行えます。

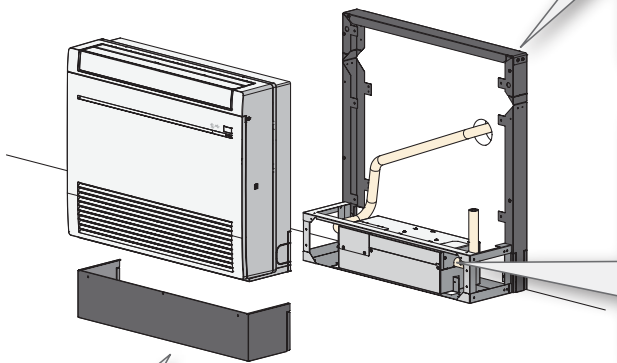


壁穴の床からの高さ	必要な別売部品			
	床置形用壁掛金具	置台	背面パネル	床置用ドレンアップメカ
③ 230~750mm	—	○	○	○
② 80~230mm	○ (どちらかを選択)	○	—	—
① 10~80mm	—	—	—	—

※壁穴の高さによっては工事が必要になる場合があります。置台を使用する際に、高さ150mmに配管穴がある場合は、ユニット下部と配管の接触を避けるために、背面パネル(MAC-316HP)を使用してください。

#### 入替えのシーンに合わせて選べる充実の別売部品

冷媒配管やドレン配管で、背面にスペースができる場合は、別売部品を用いることで、インテリア性を損うことなく、カンタンに入替えができます。



壁穴をそのまま利用し、背面とのすきをなくしたい  
背面パネル(別売)を使用して、背面のスペースを覆うことができます。

さらに  
背面パネルは最大2つまで連結することができます。  
120mmまで対応可能

**NEW** 背面パネル(別売) MAC-316HP

最大800mmまでドレンアップ可能  
別売のドレンアップメカでドレンアップが可能です。

**NEW** 床置用ドレンアップメカ(別売) MAC-862DM

最大800mm

※床置用ドレンアップメカは、壁穴の床からの高さが230~750mmの範囲でお使いください。  
※ドレンアップメカ使用時は、背面パネル(MAC-316HP)と置台(MAC-311TD)を必ず併用してください。

床とのすきをなくしたい  
置台(別売)を使用して、床とのスペースを埋めることができます。

さらに  
置台内部にドレンアップメカを設置することもできます。

**NEW** 置台(別売) MAC-311TD

隠蔽設置にも対応  
カウンターの下や埋込設置の場合でも、居住空間へスムーズに風をお届けします。

**NEW** フロアビルトイン用ダクトセット(別売) MAC-760FD

## 4. 施工関連資料（詳細）

施工（含：リニューアル）前にご確認いただきたい資料は下表のとおりです。

設置パターン ＜参照図＞ （新規、入替共通）	ドレン ポンプ	製品以外に必要な 床置形専用別売部品	参 考 資 料 No	
			製品据付工事説明書 &必要空間距離	必要別売部品納入仕 様書&据付工事説明
標準設置＜図1＞	無	なし	資料1	なし
隠蔽設置＜図2＞	無	フローアビルトイン用 ダクトセット	資料1	資料2
壁掛金具設置 ＜図4＞	無	床置形用壁掛金具	資料1	資料3
床置用 ドレンアップメカ使用 標準設置＜図5＞	有	床置用ドレンアップメカ、 置台、背面パネル	資料1	資料4、5、6
床置用 ドレンアップメカ使用 隠蔽設置＜図3＞	有	フローアビルトイン用 ダクトセット、 床置用ドレンアップメカ、 置台、背面パネル	資料1	資料2、4、5、6

\*当社過年度床置形機種やクリーンヒーター等からの入替については5～7ページも併せて参照ください。

\*製品や別売部品の納入仕様書、据付工事説明書はWINKから最新版をダウンロードできます。

据付工事説明書は製品にも同梱しています。詳細寸法や仕様等は最新版でご確認ください。

## 5. 再利用可能な部材 \*1

- 1) 既設配管、既設配線 \*2
- 2) 別売床置形用壁掛設置金具“MAC-300BP” \*3
- 3) 別売インターフェイス“MAC-333IF” \*4
- 4) 上記 1)～3)以外、入替時に再利用可能な部材はありません。

\*1. 既存部材を再利用した場合、万一それが原因でエアコン構成部品が故障しても弊社では補償できません。

\*2. 9ページのチェックフローに適合している場合に限りです。

\*3. MFZ-\*\*RASタイプ、MFZ-\*\*2ASタイプ、並びにMFZ-H\*\*3S/H\*\*2S/H\*\*7Sタイプからの入替時に限りです。

\*4. MFZ-HK\*\*5Sタイプへの別売インターフェイス“MAC-384/388/397/399IF”使用は弊社指定外接続になり、万一不測事態が発生しても、弊社では一切品質保証できません。

## 6. 当社過年度床置形機種等からの入替（リニューアル）要領

**MFZ-HK\*\*5S シリーズ にリニューアル可能です。下記を参照してください。**

上記機種は、いずれも R410A を採用しています。

リニューアルに際し、既設冷媒配管の再利用が可能ですが、下記にご注意願います。

- 古いエアコン取外しの際には必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を実施してください。
- 冷媒配管厚が下記であることを確認してください。  
φ 6.35/ φ 9.52/ φ 12.7mmを使用する場合、冷媒配管厚 0.8mmあること。
- フレアは R410A 用対応に切り直してください。

※冷媒配管内が極端に汚れている場合には R22 と同様に洗浄するか新しい冷媒配管に交換してください。

※施工用工具は、R410A 用を使用ください

No	既設の代表機種	既設機種の一覧	リニューアル機種形名
1	MFZ-282AS	MFZ-28/36/40/50/562AS MFZ-H28/40/503S MFZ-28/36/40/50/56RAS MFZ-H28/40/502S MFZ-H28/40/507S	MFZ-HK285S  MFZ-HK405S  MFZ-HK565S
2	MFZ-2810S	No1、3、4 以外の全機種	
3	MFH-4020S	MFH-351AFS/351BFS MFH-40/5020S/T MFH-452BFS/T MFH-40/5021S/T MFH-25/351/2BXS MFH-5024S/T MFH-40/5025S/T	
4	MFH-5603T	MFH-3503S/T MFH-4503S/T MFH-5603T	

- 冷媒配管 / ドレン配管の接続位置が異なるため、修正が必要です。
- 三相 200V 機種については（語尾にTがつくタイプ）MFZ-HK シリーズに三相 200V 機種がない為、そのままではリニューアルできません（屋内配線を単相 200V に直す必要があります）。
- 冷専タイプは内外接続電線が 2 芯の為、配線リプレースできません。  
新規に配線する必要があります（冷媒配管はそのまま流用できます）。
- クリーンヒーターエアコンからのリニューアルについては、ドレン位置を確認のうえ MAC-311TD（置台）、MAC-862DM（床置用ドレンアップメカ）、MAC-316HP（背面パネル）をご使用ください。
- 性能面での注意事項  
お部屋の広さに適したエアコンであれば、仮に旧機種に比べて定格冷暖房能力が低い場合でも最大冷暖房能力が上回っていれば、省エネ性を損なうことなくリプレースすることが可能です。  
なお、旧機種にサブヒーターが付いている場合には、サブヒーター分を暖房能力に加えて比較いただく必要がございますので、ご留意ください。

## ★ リニューアルポイント ★

- 床置形の古い機種からリニューアルする場合、基本的に大きく分けて4種類の代表機種 (MFZ-282AS, MFZ-2810S, MFH-4020S, MFH-5603T) に分けられます。代表機種以外の形名は前頁の表をご覧ください。それらの機種の主な寸法を比較した表を次ページに示します。
- 別売の床置形用壁掛金具 (MAC-300BP) や置台 (MAC-311TD) 等によりユニット高さを調節することが可能です。また、背面にスペースがあいてしまう場合は、別売の背面パネル (MAC-316HP) をご使用ください。但し、ユニット高さ位置を 150mm 以上高くすると、暖房性能 (快適性) への影響がありますので、避けてください。
- <隠蔽設置の場合>  
MFZ-2810S と比べて新モデル MFZ-HK\*\*5S は 35mm 奥行き寸法 (T) が大きいですが、MFZ-2810S の隠蔽設置の据付は 350mm の奥行き寸法を取ることが指定されている為、リニューアル可能です。(MFZ-HK\*\*5S の必要最小寸法は 255mm)

### 作業内容

1. 既存の室内ユニットと室外ユニットを取外します。
2. 冷媒配管とドレン配管を所定位置に変更します。

ドレン配管: 下り勾配 1/100 以上となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。

3. 新機種 (MFZ-HK\*\*5S) を据付工事説明書にしたがって据付けます。

※本内容は一例です。様々な据付形態がありますので各現場にて適宜対応をお願いします。

### \*\* 壁穴の位置に応じて選べる別売部品 \*\*

壁穴の高さが合わなくても…



別売部品を使用することで、壁穴の再利用が可能!! ※



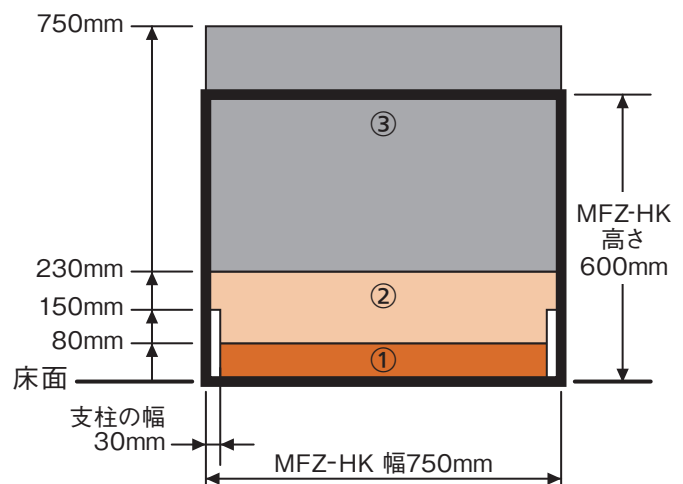
壁穴の高さに応じて使用する別売部品が変わります。

壁穴の 床からの 高さ	必要な別売部品			
	床置形用 壁掛金具	置台	背面 パネル	床置用ドレン アップメカ
③ 230~ 750mm	—	○	○	○
② 80~ 230mm	○	○ (どちらかを選択)	—	—
① 10~ 80mm	—	—	—	—

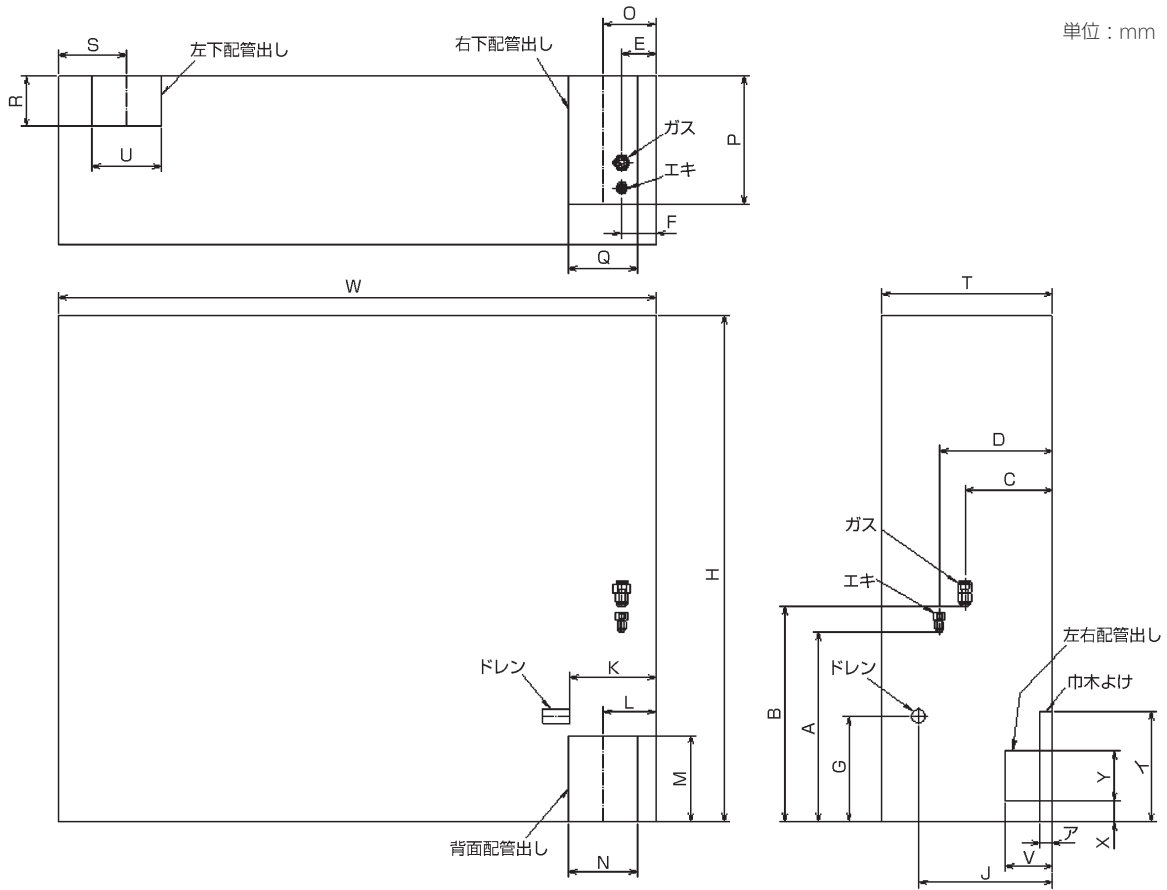
※壁穴の高さによっては工事が必要になる場合があります。置台を使用する際に、高さ 150mm に配管穴がある場合は、ユニット下部と配管の接触を避けるために、背面パネル (MAC-316HP) を使用してください。

### 壁穴の位置図

下図①, ②, ③の範囲にある壁穴は再利用できます。



《寸法比較表》



単位：mm

部位	寸法箇所	新規 MFZ-HK**5S		リニューアル〈既設の代表機種（6ページ参照）〉				
		MFZ-HK**5S		MFZ-282AS	MFZ-2810S	MFH-4020S	MFH-5603T	
		ドレンアップメカ付 *1		ドレンアップメカ無				
ユニット外形	W	750		750	700	790	920	1100
	H	750		600	600	595	595	700
	T	275		215	200	180	205	200
冷媒配管	A	315		165	165	175	190	233
	B	355		205	205	215	230	383
	C	191		131	96	83	169	63
	D	213		153	118	83	169	36
	E	35		35	35	30	87	78
	F	45		45	45	50	60	108
ドレン配管	G	277	*2	101	123	108	112	230(120)
	J	164	DP	166	128	144	70	130
	K(右)	85	—	85	110	80	127	255
	K(左)	—	—	180	—	—	—	77
	方向	下	—	横(左)	下	横	横	後斜下
背面配管出し	L	*3	62	62	62	55	90	177
	M	—	97	97	97	155	18~155	80~150
	N	—	79	79	78	60	75	110
右下配管出し	O	—	62	62	62	54	84	118
	P	—	205	145	147	133	157	28~70
左下配管出し	Q	—	75	75	75	63	78	110
	R	—	120	60	60	55	65	—
	S	—	218	218	168	154	142	—
左右配管出し	U	—	150	150	150	100	100	—
	V	—	—	60	60	58	61	40~60
	X	—	—	30	19	12	20	80
巾木よけ	Y	—	—	60	60	64	75	70
	ア	—	12	12	12	10	10	—
	イ	—	125	125	125	80	95	—

\*1：ドレンアップメカ付の寸法は置台と背面パネル付で据え付けた場合の寸法です。

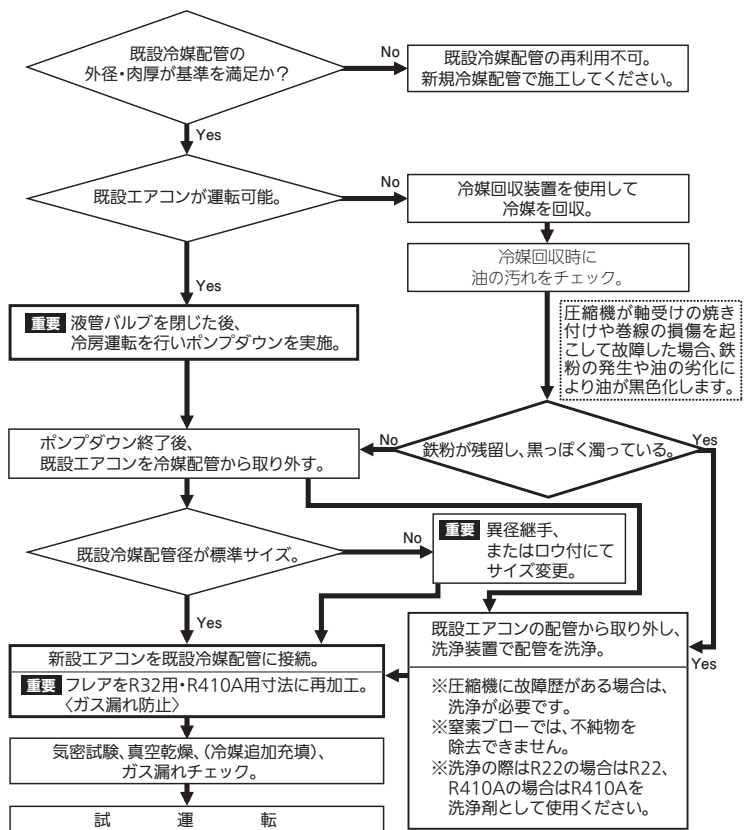
\*2：DPはドレンポンプです。

\*3：ドレンアップメカ使用時は、前ページ 壁穴の位置図の③の範囲が配管出し範囲となります。

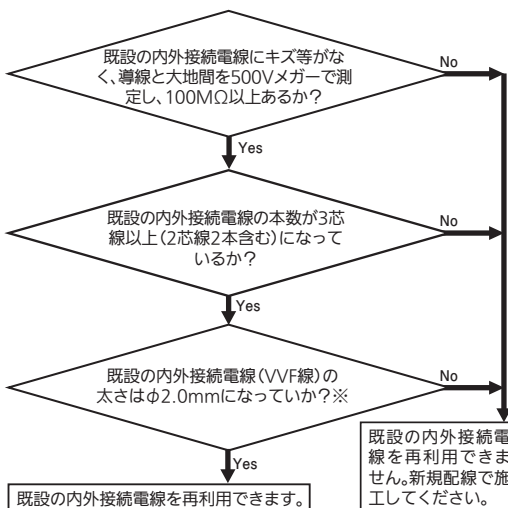


# 配管・配線リユースチェック

## ◆既設冷媒配管リプレース可否チェックフロー



## ◆既設配線リプレース可否チェックフロー



●冷専・一定速機からの配線リプレースはできません。  
 ※内外接続電線は将来のリプレースなどを考慮し、φ2.0mmを推奨しますが、下記条件を満たす場合はφ1.6mmも使用できます。  
 ①室内受電(シングル接続)の場合、ただし最大電流15A以下の機種、かつ内外接続 電線長10m以下の場合に限る。  
 ②室外受電(シングル接続/マルチ接続)の場合。

外径	肉厚
φ6.35	0.8
φ9.52	0.8
φ12.7	0.8

いままでのリプレースは…一般的な冷凍機油では既設配管の「洗浄」か「総取替え」が必要です。

**洗浄の場合** 施工時間 約290分 ※

**総取替えの場合** 施工時間 約150分 ※

※当社調べ

エアコンから冷媒を回収(ポンプダウン)

既設配管が使えない機種は… 配管取替や洗浄作業のほか、埋設配管の場合は壁のリニューアルも必要!

霧ヶ峰なら、こんなにカンタン! 既設配管を洗浄せずに再利用できます!

**霧ヶ峰なら 施工時間 約90分** ※

エアコンの取外し 取付けだけでOK!!

エアコンから冷媒を回収(ポンプダウン)

霧ヶ峰はエアコンから冷媒を回収(ポンプダウン)し… エアコンの取外し & 取付けだけ\*。とってもカンタン!!

※ポンプダウンは必要です。

配管の再利用で、工事がぐんと簡単に。

**1日仕事 半日に!!**

※2室用マルチエアコンでの当社試算

試運転 真空乾燥 新設エアコン 取付

配管洗浄

既設エアコン 撤去 冷媒回収(ポンプダウン)

従来機種(配管の洗浄後入替え)

試運転 真空乾燥 新設エアコン 取付 既設エアコン 撤去 冷媒回収(ポンプダウン)

霧ヶ峰

**ヒミツは「冷凍機油」の違い!**

一般的な冷凍機油(エステル油・エーテル油)は、水分や鉱油\*が混じると劣化するため洗浄が不可欠。  
 ※R22機種の冷凍機油

三菱が特許を持つアルキルベンゼン油は、**鉱油等と混じっても劣化がほとんどないので、洗浄レスでも問題なし!**

エステル油・エーテル油      アルキルベンゼン油

使い始め      10年後      使い始め      10年後

冷凍機油の劣化あり      冷凍機油の劣化がほとんど無い

霧ヶ峰でも、配管洗浄・交換が必要となる場合があります。

① 圧縮機モーターの焼き付きによる故障のとき  
 圧縮機の軸受けの焼き付きや、モーター巻線の焼損を起こした場合、鉄粉が配管内に混入しているため、そのまま使用すると新しいエアコンの冷媒回路中に詰まるおそれがあります。  
**判別方法** 配管に残った油を白い布やティッシュで受けた際、灰色系になっているときはモータ焼き付きの可能性があります(単なる油の劣化は黄色や茶色系になります)。  
 ※モーター焼き付きでない場合でも、油が極端に汚れているときは洗浄か交換が必要です。

② 配管の肉厚が0.8mm未満のとき(交換が必要です)  
 R22に対し、R32やR410Aは動作圧力が高いため、配管肉厚が薄いこと亀裂が入り冷媒漏れの原因となります。  
 ※配管肉厚が0.8mm以上の場合でも、フレアはR32やR410Aに対応した寸法となるよう加工しなおしてください。またφ12.7の配管を再利用する場合は、フレアナットもR32やR410Aに対応したものに交換してください。



# 三菱 床置形ハウジングエアコン 据付工事説明書

販売店・工事店さま用

冷媒  
R410A

室内ユニット：MFZ-HKシリーズ  
室外ユニット：MUFZ-HKシリーズ

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事前にこの据付工事説明書を必ずお読みください。



家庭用エアコンには最大でCO<sub>2</sub>（温暖化ガス）3,600kgに相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄などにあたってはフロン類の回収が必要です。

## 安全のために必ずお守りください

- ご使用の前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、②「据付時・据付工事後の確認」を必ず確認し、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。お客さまに、取扱説明書・保証書とともに大切に保管していただくように依頼してください。



### 警告

（誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの）

- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。据付けには専門の知識と技術が必要です。お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、据付工事説明書に従って確実にを行う。据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 可燃性ガスが漏れるおそれのある場所への据付けは行わない。万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、爆発の原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実にを行う。強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガの原因になります。
- 据付けや移設の場合は、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外のものを混入させない。空気などを混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入替え）しない。機器の故障や破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- 据付けは、R410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用する。R410Aは、R22に比べて圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・ケガの原因になります。
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取付ける。冷媒配管を取付けていない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチを用い指定の方法で締め付ける。フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが破損し、冷媒漏れの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は、換気する。冷媒が火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 電源コードの中間接続・延長コードの使用・タコ足配線はしない。接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、感電・火災の原因になります。
- 電源コードや内外接続電線をはさんだり、ネジなどで傷つけない。電源コードや内外接続電線に傷がつくと、感電・火災の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」を遵守し、据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 室内ユニットと室外ユニットの間の配線は、指定の内外接続電線を使用して確実に接続し、端子台接続部に内外接続電線の外力が伝わらないように確実に固定する。中間接続は、絶対に行わない。接続や固定に不備があると、火災の原因になります。
- 内外接続電線は、必ず単線を使用する。より線は絶対に使用しない。接続や固定に不備があると故障や発熱・火災の原因になります。
- 接続ケーブルは所定の位置に確実に固定する。正しく固定されないと、感電・火災・故障の原因になります。
- 電源電線が破損した場合の電線交換などは専門業者に依頼する。不備があると、感電・火災などの原因になります。
- 漏電しゃ断器を取付ける。漏電しゃ断器が取付けられていないと、感電・火災の原因になります。
- 接地（アース）工事を確実にを行う。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない。接地（アース）工事に不備があると、感電の原因になります。
- 冷媒配管は、JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220のりん脱酸銅を使用し、配管接続を確実にを行う。配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります。
- 室内ユニットの電気品カバーおよび室外ユニットのサービスパネルを確実に取付ける。室内ユニットの電気品カバーおよび室外ユニットのサービスパネルの取付けに不備があると、水・ほこりなどにより、感電・火災の原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する。冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。



### 注意

（誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの）

- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据付けしない。小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。また、お客さまに周囲をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。ケガの原因になることがあります。
- ドレン・配管工事は、据付工事説明書に従って確実にを行う。ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になることがあります。
- 新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスがけ時にはエアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は十分に換気を行ってください。ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因になることがあります。

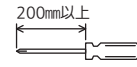
1

# 1 使用部品 (各項目のイラストを参照し、確認してください)

室内ユニット付属部品		
①	ドレンホース(ユニット組込済)	1
②	パイプカバー	1
③	バンド	2
④	アルカリ乾電池 リモコン用 単4形	2
⑤	室内ユニット固定用木ネジ	4
⑥	⑤の座金	4
⑦	フェルトテープ	1
⑧	リモコン	1

現地で準備していただく部品 (別売部品および一般市販部品)					
Ⓐ	内外接続電線 VVFケーブル 3芯 φ2.0mm	1	Ⓚ	冷凍機油	少量
Ⓑ	冷媒配管(こん包表示による)	1セット	Ⓛ	アース棒 (別売部品)	1
Ⓒ	断熱材 耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚3mm(暖管、ガス管用)	1	Ⓜ	電源電線 VVFケーブル2芯φ2.0mm	1
Ⓓ	配管テープ	1	Ⓨ	寒冷地用ドレンソケット (別売部品)	1
Ⓔ	延長ドレンホース、軟質塩ビホース(内径15mm)、硬質塩ビ管(VP30)	1	Ⓩ	硬質塩ビ管 (VP25)	1
Ⓕ	壁穴用スリーブ (別売部品)	1	ⓐ	接続用部品 エルボ(またはソケット)	1
Ⓖ	配管穴補修部品 パテ、カバー(または石膏等)	1	ⓑ	防雪架台(二段架台) (別売部品)	1
Ⓖ	配管固定用バンド	2~5	ⓓ	防雪フード (別売部品)	1
Ⓖ	⑧の固定用ネジ	2~5			

●室内ユニットの固定の際に軸の長さ200mm以上のプラスドライバーが必要となります。



- 据付前に付属部品を確認してください。 ●現地で準備していただく部品の数量は室内ユニットと室外ユニット各1台の場合の使用数です。
- 内外接続電線Ⓒについては3芯φ2.0mmを推奨しますが、室内受電の最大電流15A以下の機種かつ電線長さ10m以内の場合は3芯φ1.6mmも使用できます。室外受電の場合は3芯φ1.6mmも使用できます。(2芯φ2.0mmと2芯φ1.6mmを組み合わせて使用しないでください)最大電流値については取扱説明書またはカタログを確認してください。
- 市販の銅管を使用する場合、JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで内部の付着油量は40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。

# 2 据付時・据付工事後の確認

□の中に✓印をいれて確認してください。確認後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。

- |  |   |
|--|---|
| <p>据付時 据付後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 専用回路を設けてありますか？</li> <li><input type="checkbox"/> 電源電圧は規定どおりですか？</li> <li><input type="checkbox"/> 内外接続電線は芯線がかくれるまで端子台へ押し込みましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 内外接続電線およびアース線は電線固定具で固定しましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 内外接続電線および電源電線の中間接続を行っていませんか？</li> <li><input type="checkbox"/> アース線の接続は確実ですか？</li> <li><input type="checkbox"/> R410A用配管または、指定肉厚の配管を使用しましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 配管接続部のリークテストを行いましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 真空引きを行いましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> ストップバルブの弁棒は全開ですか？</li> <li><input type="checkbox"/> ドレンホースの接続は確実ですか？</li> <li><input type="checkbox"/> 水を流してドレン排水を確認しましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 本体裏側配管収納部内の配管はフェルトテープを巻きましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> 据付場所の強度はエアコンの重量に十分耐える場所で、騒音や振動が増大しないところですか？</li> </ul> | <p>据付時 据付後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> パネルは確実に取付けられていますか？</li> <li><input type="checkbox"/> 前パネルの閉め忘れはありませんか？</li> <li><input type="checkbox"/> 室内ユニットの吹出口の前に物を置いていませんか？</li> <li><input type="checkbox"/> 室内ユニットの吸込口の前に物を置いていませんか？</li> <li><input type="checkbox"/> 試運転は行いましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> リモコンの号機は正しく設定されていますか？</li> <li><input type="checkbox"/> ドレン工事を適切に行い、異音(ポコポコ)が発生しないことを確認しましたか？</li> <li><input type="checkbox"/> □(安全のために必ずお守りください)の▲警告 ▲注意の項目を確認しましたか？</li> </ul> |
|--|---|

**お客さまへの説明**

●取扱説明書に従って、運転・操作・室内ユニットの清掃方法などを正しく、わかりやすくご説明してください。

# 3 ポンプダウンの手順 (強制冷房運転)

- 移設または廃却時に、環境に配慮して冷媒を大気に出さないため、下記の手順に従ってポンプダウンを実施してください。
- 1) 室外ユニットのガス側ストップバルブ(3方弁)のどこのサービスポートにマニホールドバルブ(圧力計付)を接続し、冷媒圧力を測定できるようにする。
  - 2) 室外ユニットの液側ストップバルブ(2方弁)を全閉する。
  - 3) 室外ユニットのガス側ストップバルブ(3方弁)をあらかじめ全閉近くまで閉める。  
(圧力計の指示が0MPa〔ゲージ〕(0kgf/cm<sup>2</sup>)に近づいたとき、容易に全閉ができるように準備する)
  - 4) 強制冷房運転をする。強制冷房運転はブレーカーを切り、約1分後に再度入れ室内ユニットの「応急運転スイッチ」を1回押す。  
(30分間連続の冷房運転になります)
  - 5) 圧力計が0.05 ~ 0MPa〔ゲージ〕(約0.5 ~ 0kgf/cm<sup>2</sup>)になったらガス側ストップバルブ(3方弁)を全閉する。
  - 6) 運転を停止する。運転停止は室内ユニットの「応急運転スイッチ」を2回押す。

⚠

警告

ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。  
圧縮機を運転したまま、ストップバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、  
空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

# 4 既設配管を再利用される場合の注意事項

- 配管に残った油を白い布やティッシュで受けた際、灰色系の油になっているときは、モーター焼付きの可能性があります。  
その場合は、配管洗浄・配管取替工事を実施してください。
- 配管の肉厚が0.8mmであることを確認してください。(JIS規格の配管)
- フレアは冷媒R410A用の寸法で作直してください。
- ガス管径が合わない場合は、ガス管用異径継手(φ9.52→φ12.7)を用いて既設配管をそのまま使用できます。

# 5 据付場所の選定

お客さまの同意を得て据付けてください。  
騒音規制や消防法などを遵守できる場所を選定してください。

次のような場所でご使用になりますとエアコンの故障の原因または悪臭や有毒ガスが室内に入ることがありますので、避けてください。

- 機械油が多い所。 ●海浜地区など塩分が多い所。
- 温泉地などの硫化ガスが発生する所。
- その他周囲のふんい気が特殊な所。
- 油の飛まつや油煙がたこめる所。(調理場や機械工場などではプラスチックが変質破損することがありますので、ご使用は避けてください)
- 高周波機器、無線機器などがある所。(誤動作します)
- クレーン車、船舶など移動するものへの据付け。

**室内ユニット**

- 吹出空気をさえぎる障害物がない所。 ●本体を十分ささえられ振動がでない強度のある所。
- 温風(または冷風)が部屋全体に行きわたる所。
- 直射日光の当たらない所。 ●ドレン排水が容易にできる所。
- テレビ、ラジオより1m以上・テレビのアンテナより3m以上離れた所。映像の乱れや、雑音が生じることがあります。電波の弱い地域では前記距離を離してもテレビ、ラジオなどにノイズが入る場合があります。その場合はノイズが入らなくなるまで離してください。
- 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。  
室内ユニットのプラスチックが、熱や紫外線による影響で変質破損することがあります。ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなる場合があります。
- フィルターの外しおよび収納操作の可能な所。

5

据付場所の選定(つづき)

リモコン

- 操作しやすく見やすい所。 ●幼児の手がとどかない所。
  - ラジオより1m以上離れた所。雑音が生じることがあります。
  - 直射日光の当たらない所。
  - ストーブなどの熱の影響を受けない所。
  - 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合には蛍光灯を点灯させ、リモコンが正常に動作する位置へ取付けてください。
- 電子式点灯方式の蛍光灯(インバーター蛍光灯など)を付けた部屋では、信号を受けない場合があります。

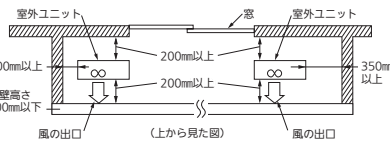
室外ユニット

- 強風に当たらない所。霜取り運転中、室外ユニットに風が当たると霜取り時間が長くなります。
- 風通しの良いほこりが少ない所。
- 雨や直射日光が当たりにくい所。直射日光が当たる場合は「日除け」(別売部品)をお使いください。
- 積雪により室外ユニットが埋もれない所。
- 運転音や熱風・冷風がご近所の迷惑にならない所。
- テレビ、ラジオのアンテナより3m以上離れた所。映像の乱れや、雑音が生じることがあります。電波の弱い地域では前記距離を離してもテレビ、ラジオなどにノイズが入る場合があります。その場合はノイズが入らなくなるまで離してください。
- 可燃性ガスが漏れるおそれがない所。
- 運転音や振動が増大しないような丈夫な壁や強固な台を選定してください。
- 高所に設置する場合は、室外ユニットの足を必ず固定してください。
- 室外ユニットは水平に据付けてください。
- 後々のサービス、補修などを考慮した場所を選定してください。
- 室外ユニット吸込口側にお子さまなどの手が触れやすい場所へ据付ける場合は、「室外機保護カバー」(別売部品)をお使いください。

4方向を壁で囲われた狭いベランダに据付ける場合、少なくとも下図のようにスペースをあけてください。

ただしこの場合には、冷暖房能力および消費電力は10%程度悪化する場合があります。

風通しが悪くショートサイクルが起きやすい場合には「吹出ガイド」(別売部品)を付けると、冷暖房能力および消費電力の改善が図れます。注:複数並列の据付けはできません。

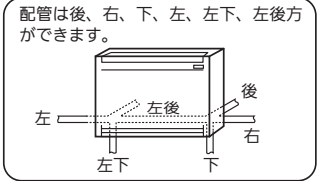


●この場合以外は⑥据付図を参照してください。

6

据付図

幅べい等の場合は「フロービルトイン用ダクトセット」(別売部品 MAC-760FD)をご使用ください。格子をつける場合、格子の開孔率75%以上のものをご使用ください。開孔率75%未満のものをご使用すると性能低下の原因となります。詳細は、「フロービルトイン用ダクトセット」の据付工事説明書をお読みください。



冷媒配管許容値

配管長	3m以上30m以内
高低差	20m以内
曲げ箇所	10か所以内

- お願い
- 延長配管が10mを超える場合は、冷媒の追加充てんが必要です。追加冷媒量は20×(延長配管長-10)gです。また延長配管30mが許容長ですので、この長さを超える工事を行わないでください。
  - 延長配管の最小配管長は3mです。

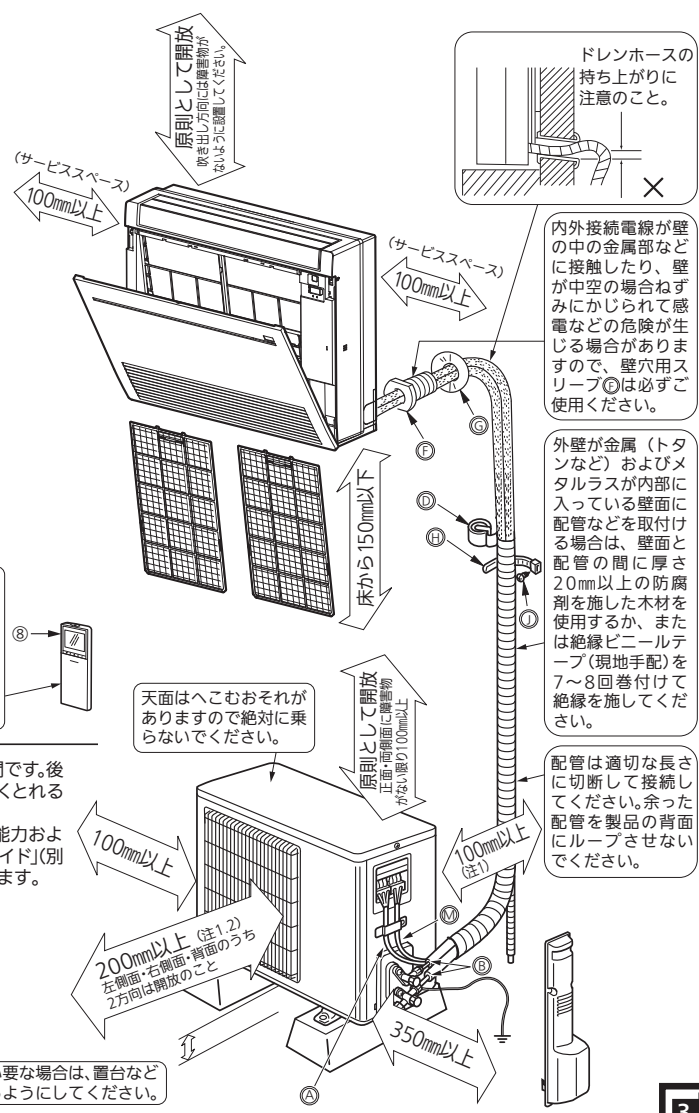
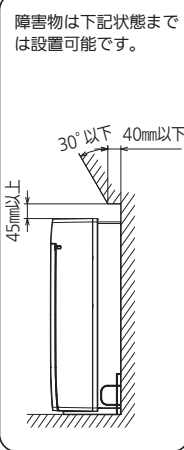
室外ユニット固定用穴位置図

冷房能力 (kW)	A	B	C
	2.8	800	310
4.0~	809	325	300

※固定ボルトはM8を使用

※右記の(←)印寸法は、エアコンの性能を保証するために必要な空間です。後々のサービス、補修なども考慮してできるだけ周囲の空間が大きくとれる場所に設置してください。

- 注 1. 風通しが悪くショートサイクルが起きやすい場合は、冷暖房能力および消費電力が10%程度悪化する場合があります。「吹出ガイド」(別売部品)を付けて冷房能力および消費電力の改善が図れます。
- 注 2. 壁に向けて吹き出すと壁が汚れる場合があります。



7

# 室内ユニットの据付け

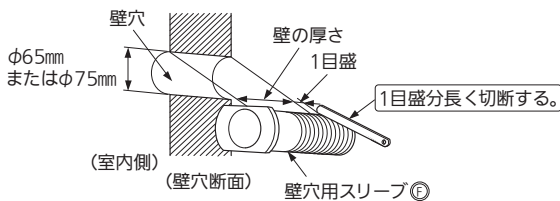
## 1. 壁・床の穴あけ

### 穴の位置決め

● 図中斜線の部分は、配管取出しの可能な部分です。

### 穴あけ手順

- φ65mmまたはφ75mmの穴を外側に約5~7mm下がりぎみにあけます。
- 壁穴用スリーブ⑤をはめ込みます。



### お願い

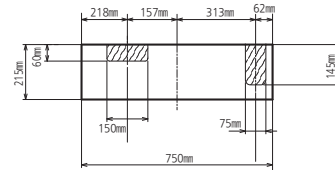
壁穴用スリーブ⑤を使用しないと、内外接続電線が壁の中の金属部に接触したり、壁が中空の場合小動物にかじられたりして感電などの危険が生じる場合がありますので必ずご使用ください。

### 穴のシール

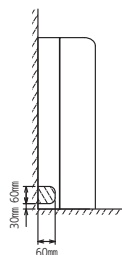
パテまたは、コーキング材でシールして仕上げます。

### 右下・左下配管の場合

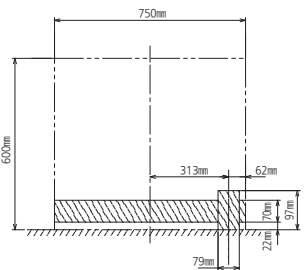
(下図はユニットの底部を上から見た図です)



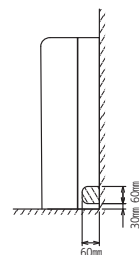
● 巾木などをよけて壁穴位置を高くしたい場合は、「置台」(別売部品)などを使用してユニット高さを壁穴位置に合わせてください。



左配管の場合



後・左後配管の場合



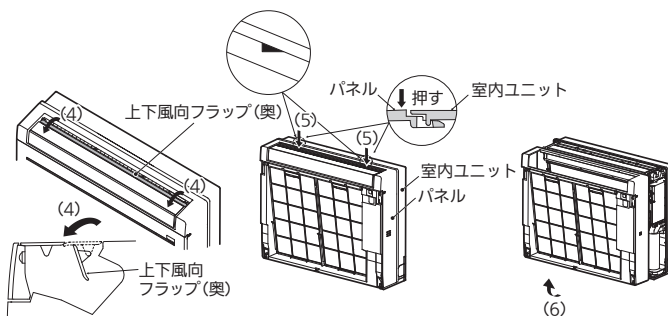
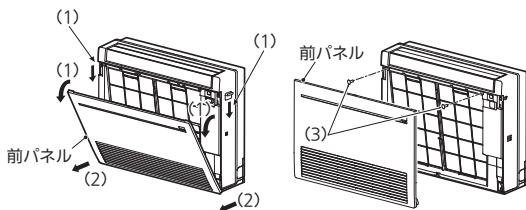
右配管の場合

(上図はユニットの正面から見た図です)

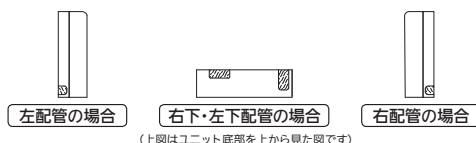
## 2. 室内ユニットの準備

● 室内ユニットのパネルを取外します。

- パネル左右側面にあるツマミを下げながら前パネルを手前に開いてください。
- 前パネルを外してください。
- 2本のネジを取り外してください。
- 上下風向フラップ(奥)を開いてください。
- パネルの上面2か所(▼マークの部分)を押し、パネルの上側を外して手前に引いてください。
- パネルを上を持ち上げながら、外してください。



配管の設置パターンに合わせて、室内ユニットの下図斜線部分を切り取ってください。

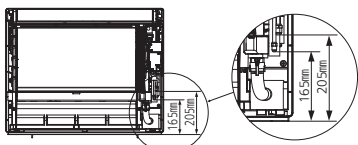


(上図はユニット底部を上から見た図です)

## 3. 配管の設置

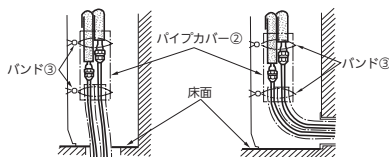
### 接続配管の設置

● 配管は多少前後左右に動かせるようにしてください。



### 右下配管の場合

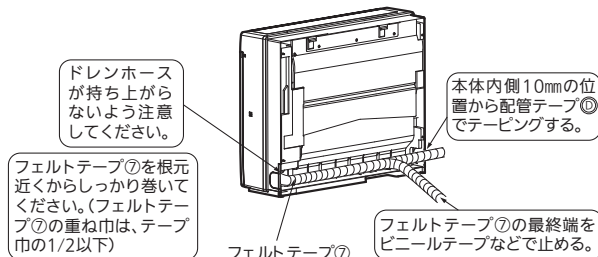
### 右下配管以外の場合



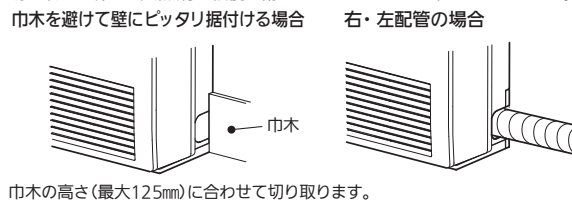
● 接続配管は必ず断熱し、パネルに接触しないよう奥へ押込んでください。  
● 配管を曲げる場合は十分に注意し、配管をつぶさないように曲げてください。

### 左・左後の配管の場合

● 冷媒配管・ドレンホースをまとめ、フェルトテープ⑦でテーピングしてください。



室内ユニットの左右側面下を下図のように切り取って使用してください。切り取った端面は、断熱材の被覆を傷つけないようきれいに仕上げてください。

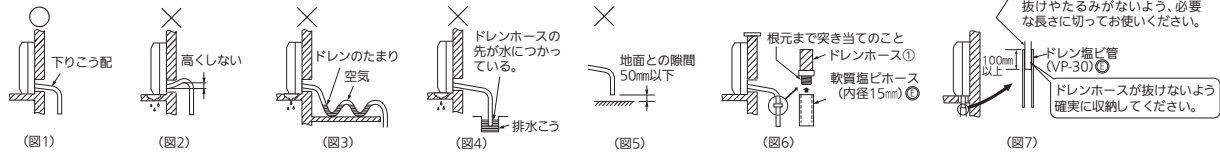


# 7

## 室内ユニットの据付け(つづき)

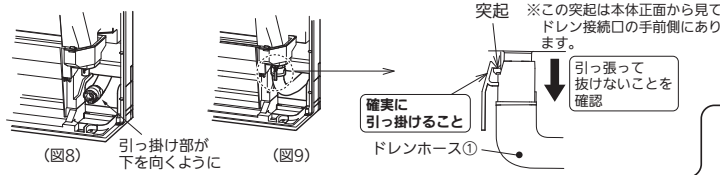
### 4. ドレン配管工事

- ドレン配管はドレンが流れやすいように、必ず下りこう配をつけて配管してください。(図1)
- 図2~図5のようなドレン配管は絶対にしないでください。
- 水を流してドレン排水を確認してください。



- ドレンホースが短い場合は、図6の方法で配管してください。
- 床下配管の場合は、図7の方法で配管してください。
- 延長ドレンホース①との接続部はテープなどで水が漏れないようにしてください。
- 高層住宅など、高所に据付ける場合、強風によるドレンホース内の逆流により室内ユニットからの水漏れが起きる場合があります。対応部品を用意しておりますので必要な場合には最寄りの「三菱電機ご相談窓口・修理窓口」にお問合わせください。
- ドレン配管を、アンモニアガス・イオウ系ガスの発生する下水槽や浄化槽などに直接入れないでください。
- ドレンホースにたるみがあったり、ホース先端が持ち上がりたりしていると、ホース内にドレンがたまり、強風の場合、あるいは高气密住宅でレンジフードなど(換気扇)を使用した場合、ドレンがスムーズに流れず、異音(ボコボコ)が発生する場合があります。異音が気になる場合は、「ドレンエア逆流防止部品」(別売部品MAC-850GB)をご使用ください。
- ドレンホースが室内を通る場合は必ず市販の断熱材(現地手配)を巻いてください。

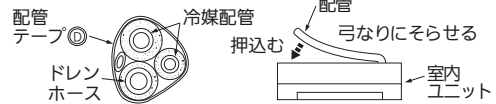
### 据付時にいったんドレンホースを取外した場合



- ドレンホース①が(図8)の位置になるようにドレン配管工事します。
- ドレンホースをドレンパンの根元(接続口)まで差込みます。(図9) このときドレンパンのドレンホース挿入部にある突起に、ドレンホースのツメを確実に引っ掛けてください。
- 接続後には必ずドレンホースを引っ張り、抜けないことを確認してください。
- ドレンホースは接続配管の斜め下側にする。
- ドレンホースの持ち上がりや、波打ちがないようにする。
- ドレンホースを引っ張ってテーピングしないこと。
- 配管は室内ユニット背面より出張らぬよう整形のこと。(下図参照)

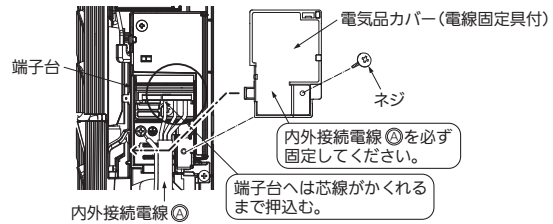
## 注意

ドレン・配管工事は、据付工事説明書に従って確実に行う。ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になります。



### 5. 内外接続電線の接続

- 電気品カバー(電線固定具付)を取外します。
- 内線規程に従ってください。
- 芯線がかくれるまで確実に押込み、各々の線を引っ張って抜けないことを確認してください。挿入が不十分だと端子台が焼損することがあります。
- 内外接続電線②を端子台に接続後、必ず電気品カバー(電線固定具付)で内外接続電線②を固定してください。



# 8

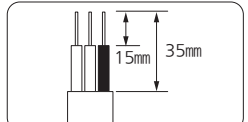
## 電源電線・内外接続電線の接続

- 電源電線のエアコンへの引込み接続工事については右記の仕様表に合わせ「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って施工してください。
- 回路はエアコン専用回路としてください。
- 後々のサービスのことも考え、内外接続電線②には余裕をもたせてください。

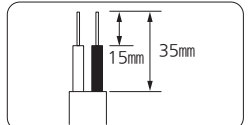
	電源を室外ユニットから取る場合	リブレース等で電源を室内ユニットから取る場合
内外接続電線		
電源電線		
接続方法		

能力帯(kW)	2.8	4.0~
定格電圧	単相200V	
ブレーカー容量	15A	20A
電源電線(分岐回路)の太さと長さ 電線径(mm)/最大こう長(m)	φ2.0/23 (φ1.6/14)	φ2.0/17

(内外接続電線) VVFケーブル3芯



(電源電線) VVFケーブル2芯



### お願い

●電源電線の接続は、室内または室外ユニットのどちらか片方のみです。室内、室外両方に接続することは絶対に行わないでください。誤配線をしますと正常な運転ができないか、またはヒューズが切れて運転が不可能となりますので誤配線のないように十分注意してください。

# 9

## 室内ユニットの固定 (倒れ防止のため必ず壁に固定してください)

- 配管工事を行う前に固定してください。
- 付属の木ネジ⑤・座金⑥にて、室内ユニット上部と中央部各2か所(合計4か所)を軸の長さ200mm以上のプラスチックで固定します。

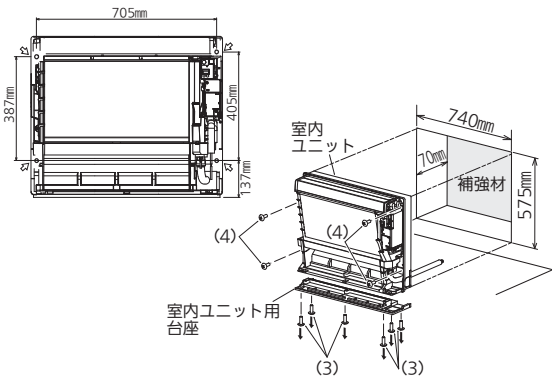
●室内ユニットを壁に確実に固定し、必ず壁との間に隙間ができないように取付けること。

### ■床に室内ユニットを設置する場合

- (1)平坦な床に室内ユニットを置く。
- (2)付属の木ネジ⑤および座金⑥を使用して屋内ユニットの4か所を固定する。ネジをしっかりと締める。

### ■壁の中に室内ユニットを埋め込む場合

- (1)壁に穴を開ける。
- (2)補強材を使用し、奥行きを調整する。
- (3)室内ユニット用台座を室内ユニットに固定している6本のネジを取り外す。室内ユニット用台座を室内ユニットから取り外す。
- (4)付属の木ネジ⑤および座金⑥を使用して室内ユニットの4か所を固定する。ネジをしっかりと締める。



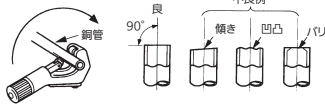
# 10

## 配管工事

### 1. 配管加工

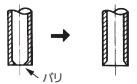
#### (1)パイプ切断

パイプの長さに余裕(300mm~500mm)を見て切断してください。

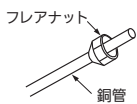


#### (2)バリ取り

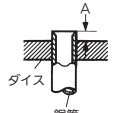
切粉が配管内に入らないように下向きに行ってください。



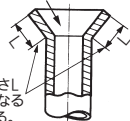
#### (3)フレアナット挿入



#### (4)フレア加工



内面は光沢がありキズがない



周囲の長さが均一になるようにする。

パイプ径 (mm)	A寸法 (mm)		
	R410A用フレアツール リジット(クラッチ)式	R22用フレアツール インバルブ付(クワット)式	
φ6.35mm(1/4")	0~0.5	1.0~1.5	1.5~2.0
φ9.52mm(3/8")	0~0.5	1.0~1.5	1.5~2.0
φ12.7mm(1/2")	0~0.5	1.0~1.5	1.5~2.0

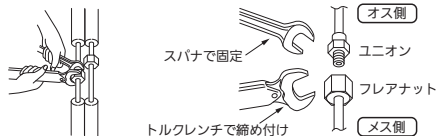
R22用のツールを使ってR410A用のフレア加工をする場合は、A寸法をR22用のときより0.5mm大きくすれば規定のフレア寸法に加工できます。出し代調整用の銅管ゲージを使用すれば、A寸法が確保できます。

・配管内部にバリ、砂、水などの異物が混入しますと圧縮機などの故障の原因になります。取扱いには十分注意してください。  
パイプの曲げ加工は十分注意して、パイプをつぶしたり折らないようにしてください。

### 2. 配管接続

#### 室内ユニットの接続

- (1)パイプとユニオンのシート面には、冷凍機油⑩を塗布してください。ネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。過剰な締付トルクによるネジ破損の原因になります。
- (2)接続は中心を合わせ、フレアナットは最初の3~4回転を手で締めます。
- (3)室内側ユニオン部は下表を目安にして必ず2スパンでトルクレンチを使用し締めてください。締め過ぎますと、フレア部を破壊します。



パイプ径	締付トルク
φ6.35mm(1/4")	14~18N・m(140~180kgf・cmに相当)
φ9.52mm(3/8")	34~42N・m(340~420kgf・cmに相当)
φ12.7mm(1/2")	49~61N・m(490~610kgf・cmに相当)

#### お願い

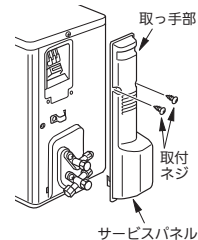
フレアナットは必ずトルクレンチを使用し、指定の締付トルクで締め付けてください。

#### お願い

接続時に配管内部に水・バリ・砂などが入ると、圧縮機の故障ならびに、性能低下につながります。配管加工時や接続時に水・バリ・砂などが入らないように十分注意すると共に、配管接続後は真空引きを必ず実施してください。

#### 室外ユニットの接続

- (1)サービスパネルの取付ネジを外します。
- (2)サービスパネルを下側に押下げてから取っ手を手前に引いて取外してください。
- (3)室内ユニットと同様に、室外ユニットのストップバルブ(2方弁、3方弁)の各配管接続口へパイプを接続してください。
- (4)フレアナットはトルクレンチを用いて、室内ユニットと同じ締付トルクで締めてください。



#### 冷媒配管

	液管	ガス管	
外径・肉厚	φ6.35mm(1/4")0.8mm	φ9.52mm(3/8")0.8mm	φ12.7mm(1/2")0.8mm
材料および規格	リン脱酸鋼 C1220T JIS H 3300		
断熱材	耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚3mm ●接続配管は2本を分離して1本ごとに断熱してください。		

配管肉厚は、0.8mmのものを使用してください。



## 警告

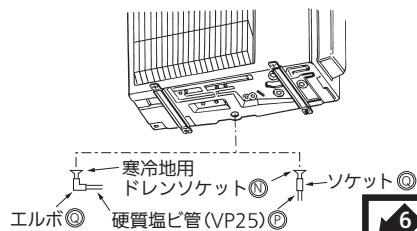
据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取付ける。冷媒配管を取付けていない状態で、ストップバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂・ケガなどの原因になります。

# 11

## 室外側ドレン配管・防雪架台・防雪フード(寒冷地対応)

### 寒冷地における注意事項

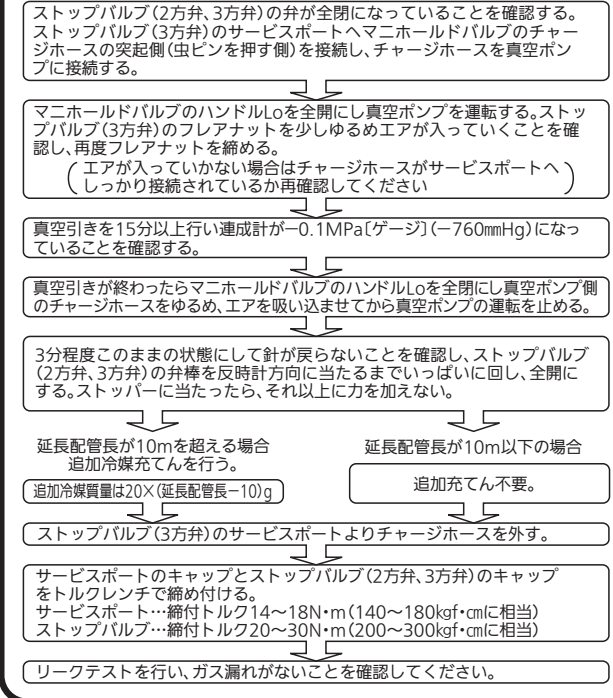
- 寒冷地では、ドレンが凍結し、ファンが回らなくなるおそれがありますので、寒冷地用ではないドレンソケットおよびビニールホースは取付けしないでください。ご使用になる場合は寒冷地用ドレンソケット⑩をご使用ください。  
(取扱方法は寒冷地用ドレンソケット⑩(MAC-870DS)の取付説明書をご覧ください)  
一部寒冷地域では、排水路ヒーター(現地手配)などの凍結防止策が必要な場合があります。
- 降雪地域では、室外熱交換器に雪が付着したり室外吹出口が確保出来ない場合、性能低下や霜取り運転頻発のおそれがありますので、防雪架台(二段架台)⑪・防雪フード⑫をご使用ください。
- 上側の室外ユニットのドレンで、下側の室外ユニットが凍結するおそれがありますので、室外ユニットの二段設置を行う場合は、寒冷地用ドレンソケット⑩をご使用ください。



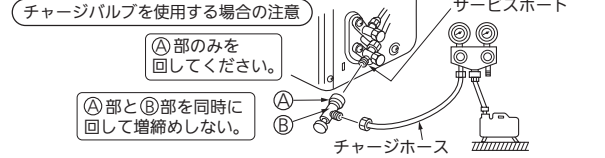
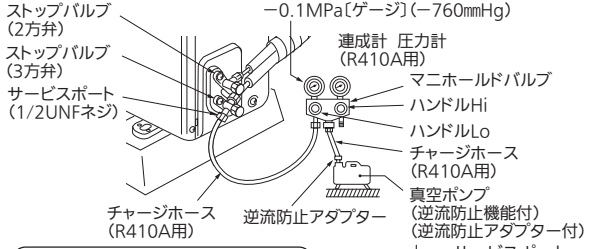
# 12 真空引き・リークテスト

地球環境保護の観点からエアパージは必ず真空ポンプ方式でお願いします。

- マニホールドバルブ使用方法の詳細はマニホールドバルブの取扱説明書をご覧ください。
- ハンドルHiを全閉にしたままで、以下の作業中は操作しません。



注1. 冷媒充てん用電子はかりを使用して、ポンベの液相から冷媒を充てんしてください。ただし液冷媒を一気に充てんすると圧縮機が故障するおそれがありますので、徐々に充てんしてください。



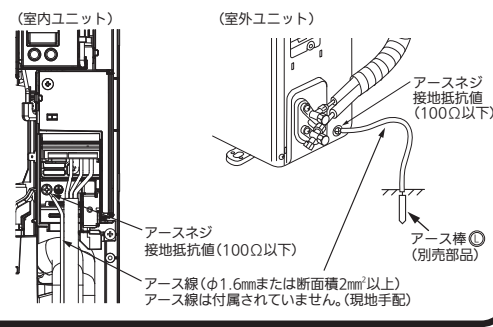
- チャージバルブをサービスポートに取付ける際に締め過ぎるとバルブコア(虫ピン)の変形・緩みによるガス漏れのおそれがあります。**
- (A)部のみを回して締め込んでください。バルブコア(虫ピン)を押込んだ状態(開いた状態)で(A)部を増締めすると、バルブコア(虫ピン)が変形するおそれがあります。
  - (A)部と(B)部(チャージバルブ本体)を同時に回して増締めしないでください。
  - 締め過ぎると、フレア部が破損し、ガス漏れの原因になります。
  - フレア部が破損すると、増締めしてもガス漏れは止まりません。
- ガス漏れの場合**
- フレアナット接続部を増締めしてください。
  - 増締めを行っても止まらない場合は、漏れ箇所修理後サービスポートより本体ガスをすべて回収し、ガスボンベより規定量を充てんしてください。

# 13 アースの取付け このエアコンは必ず接地工事をしてください。

- 接地工事は、「電気設備に関する技術基準」に従って電気工事士の資格のある方が実施してください。

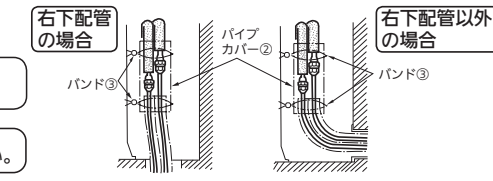
接地の基準	電源の条件		据付場所			
	交流対地電圧が150V以下の場合	交流対地電圧が150Vを超える場合	エアコンの種類	水気のある場所	湿気の多い場所	乾燥した場所
標準	単相100Vの機種 単相200V(単相3線式200V電線)の機種	三相200Vの機種	単相100Vの機種 単相200V(単相3線式200V電線)の機種	水気のある場所	湿気の多い場所	乾燥した場所
注				漏電しゃ断器を取付け、さらにD種接地工事が必要です。	D種接地工事が必要です。	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。

- 〈D種接地工事について〉**
- 接地工事は電気工事士の資格のある方が実施してください。
  - 接地抵抗値は100Ω以下であることを確かめてください。(漏電しゃ断器を取付けた場合は500Ω以下であることを確かめてください)
  - 室内ユニットからアースをとる際には、右図の位置にアースネジ 4×8で固定してください。
  - 室外ユニット側でアースを取る場合、必要に応じてアース棒①を付けてください。



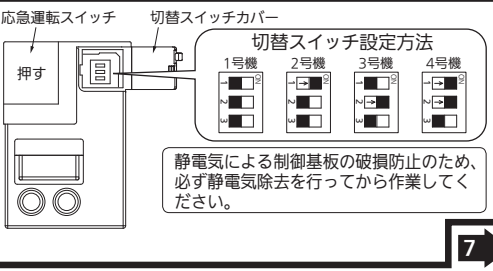
# 14 断熱とテーピング

- (1) バイブカバー②で接続部の配管をおおい、バンド③でバイブカバー②の上下を固定します。
  - (2) 室外側はバルブ部までしっかり断熱してください。
- 天井裏や押し入れなどの高温、多湿な場所へ配管を通す場合には、露付き防止のため更に市販の断熱材を巻き加えてください。
- お願い**
- バイブカバー取付時、室温サーミスターを引っ掛けて巻込まないように注意してください。



# 15 同じ部屋にエアコンを複数台設置する場合

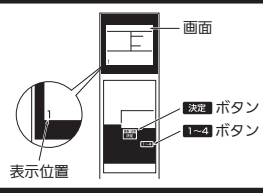
- 同じ部屋または、近接する部屋に複数台室内ユニットを設置した場合、1つのリモコンの信号を複数の室内ユニットが同時に受信してしまうことがあります。この誤動作を防止するために号機切替機能を設定することが可能です。
  - 室内ユニットとリモコンのそれぞれに設定があります。下記設定方法に従って室内ユニットの切替スイッチおよびリモコンのボタンを操作して双方の番号が合うように設定してください。
  - 出荷時は室内ユニット「1号機」、リモコン「1」の設定になっています。(最大4号機まで設定できます)
- 室内ユニットの設定**
- 設定はエアコン用ブレーカーを「切」にしてから行ってください。
  - 室内ユニットのパネルを外し、「応急運転スイッチ」の右の切替スイッチカバーを開けてください。
  - 右図の位置に切替スイッチがありますので、右図の設定を行います。
  - 設定が終わりましたら、切替スイッチカバーを閉めてパネルを取付けてください。





# 15 同じ部屋にエアコンを複数台設置する場合(つづき)

- リモコンの設定
- 停止状態で「1-4」ボタンを3秒連続で押してください。「1」の表示が出ます。(右記表示になります)
  - 「1-4」ボタンを押して「2」～「4」の表示にしてください。
  - 「決定」ボタンを押して完了です。

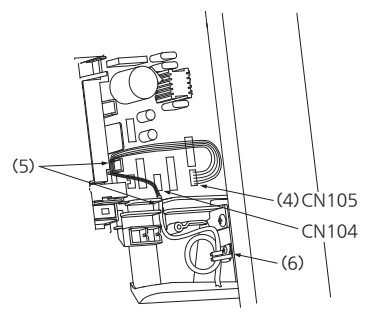


# 16 遠隔操作別売部品の取付け (当社別売部品のシステム制御用インターフェイスに対応しています)

本機のみでは、遠隔操作はできません。

- 室内制御基板上には遠隔制御を行う場合のためにHA・JEM-A対応コネクタ(CN104)、各種別売インターフェイス用コネクタ(CN105)が搭載されています。

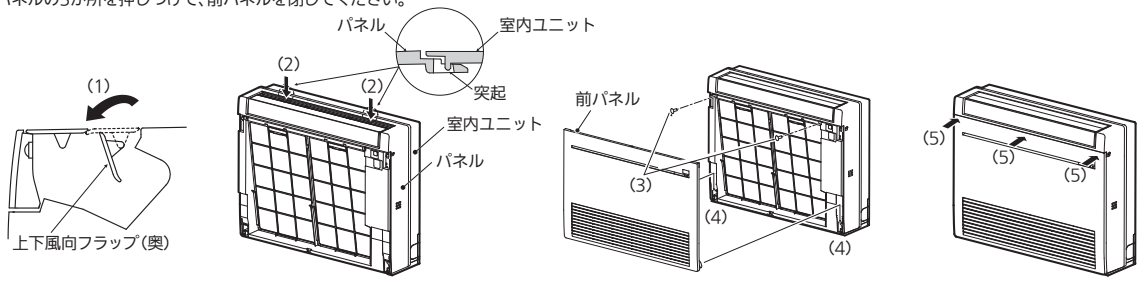
- 本機と遠隔操作別売部品を接続する場合は以下に従って正しく接続してください。
- (1)接続はエアコン用ブレーカーを「切」にしてから行ってください。
  - (2)室内ユニットのパネルを外します。
  - (3)電気品カバー、室内制御基板カバーを外します。
  - (4)室内制御基板のコネクタCN105に接続ケーブルを接続します。
  - (5)接続ケーブルを図のように取り回します。
  - (6)接続ケーブルは1周させてタイラップでしばります。そのタイラップの下でバンド固定します。
  - (7)室内制御基板カバー、電気品カバーを取付けてください。室内制御基板カバー、電気品カバーで接続ケーブルをはさまないように注意してください。
  - (8)パネルを取付けてください。



**警告** ■接続ケーブルは所定の位置に確実に固定する。正しく固定されないと、感電・火災・故障の原因になります。

# 17 前パネルの取付けかた

- (1)上下風向フラップ(奥)を開いてください。
- (2)パネルを付けてください。突起がはまっていることを確認してください。
- (3)パネルにネジを取付けてください。
- (4)前パネルの下部の突起2か所をパネルの溝に差込みます。
- (5)前パネルの3か所を押しつけて、前パネルを閉じてください。



# 18 試運転 (必ず実施してください) 試運転以外での長時間の運転はおやめください。 建築中の現場等で長時間運転しますと、ほこりやにおいが付着する場合があります。

- 据付工事完了から試運転まで期間がある場合は、再度 2 据付工事後の確認を実施してください。
- できるかぎり、お客さま立会いで試運転を実施してください。

- (1)電源は定格電圧と合っているか必ず確認してください。ブレーカーを入れます。
- (2)「応急運転スイッチ」を押してください。(30分間は試運転となります)
  - 1) 1回押すと冷房試運転を開始します。

この時、約4分から約6分後に「運転モニターランプ」が点滅する場合は内外接続電線の誤配線を点検してください。

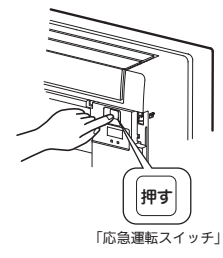
- 2) もう1回押すと暖房試運転を開始します。
- 3) もう1回押すと運転が停止します。(「応急運転スイッチ」を押すごとに1)→2)→3)を繰り返します)

「応急運転スイッチ」を押すと30分間試運転(温度調節がはたらかず連続運転)の状態になり、30分以降は応急運転(冷暖房ともに設定温度24℃)となります。

- (3) リモコンの送信を確認してください。リモコンの「入/切」ボタンを押して、室内ユニット本体の受信音が鳴るのを確認してください。もう1回ボタンを押して「切」にしてください。受信しない場合は 16 にて室内ユニットとリモコンの設定が一致しているか確認してください。

リモコンで操作した場合は、リモコンの指令に従い試運転、応急運転とも解除されます。

- いったん、圧縮機が停止しますと、機器保護のため、3分間再起動防止機構が作動し、3分間は圧縮機が再運転しないようになっています。



モード	運転モニターランプ	
(1) 冷房試運転	● (点灯)	○ (消灯)
(2) 暖房試運転	○	●
(3) 停止	○	○

**注意** 新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスがけ時にはエアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は十分に換気を行ってください。ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや露飛びの原因になることがあります。

## 三菱電機株式会社

静岡製作所 〒422-8528 静岡市駿河区小鹿3-18-1

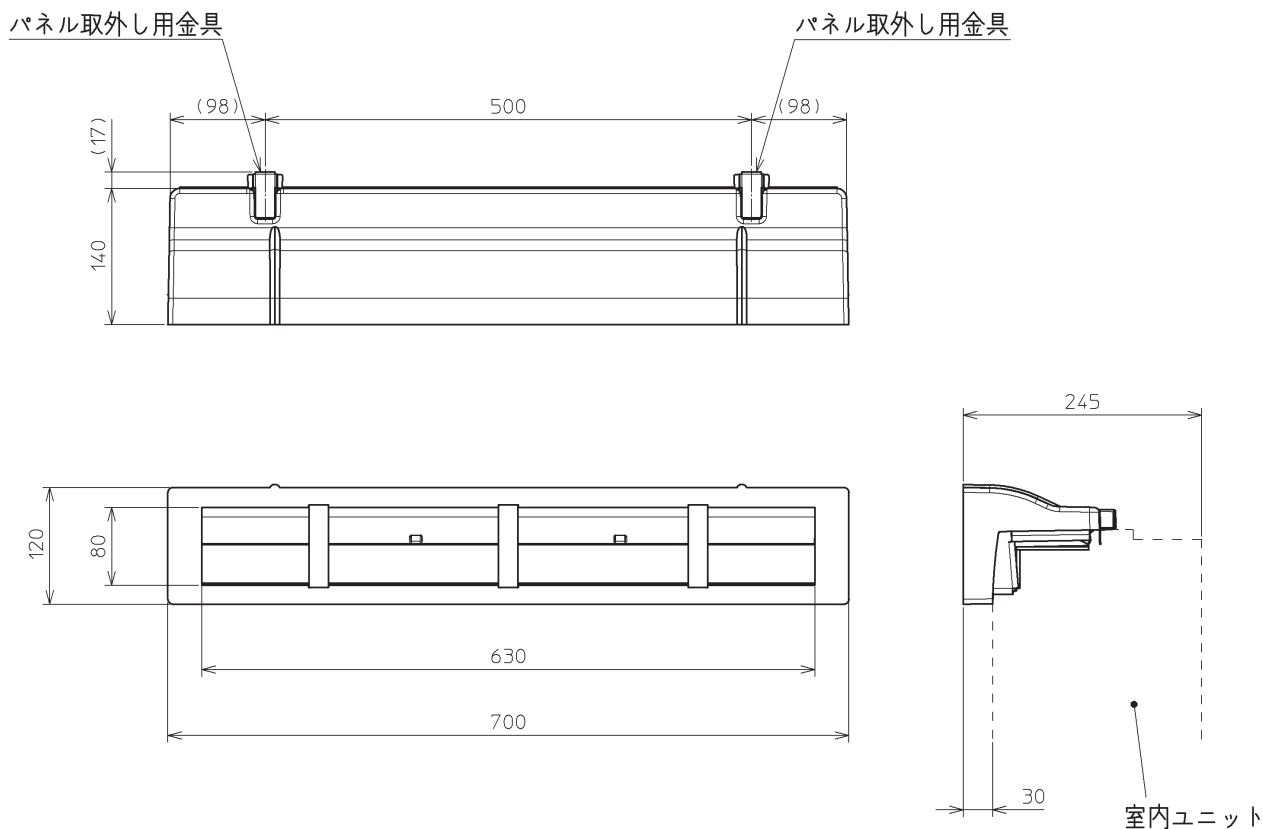
# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

品名 フロアービルトイン用ダクトセット 形名 MAC-760FD

## 1.仕様

項目		内容
外装	色	グレー
	材質	発泡スチロール
質量		250g
付属品		パネル取外し用金具X2

## 2.外形図



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

形名 MAC-760FD

三菱電機株式会社

第3角法  
単位:mm

作成日  
2014-5-13

図  
番

DK01B783

副番



三菱ハウジングエアコン 別売 フローアビルトイン用ダクトセット  
 形名 MAC-760FD  
**据付工事説明書** 販売店・工事店さま用

● 本製品はガラリ等、隠蔽設置時の風向制御をするための部品です。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が重要です。据付工事前にこの据付工事説明書と室内ユニットの据付工事説明書を必ずお読みください。

**安全のために必ずお守りください**

- ご使用前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。

**警告** (誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの)

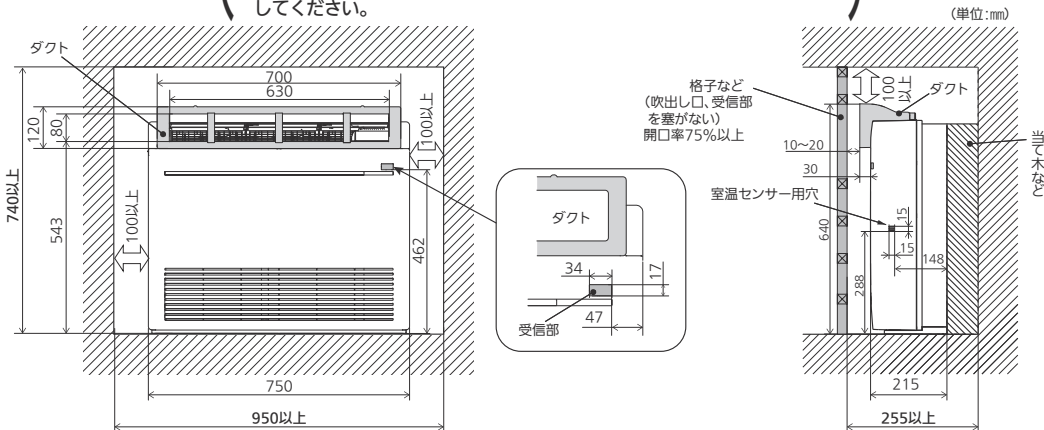
- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。  
据付けには専門の知識と技術が必要です。  
お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガなどの原因になります。
- 据付けは、据付工事説明書に従って確実にを行う。  
据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。  
当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。

**使用部品**

部品	①	②
ダクト		パネル取外用金具
個数	1	2

**埋込設置**

- 室内ユニット上と左右のスペース(100mm以上)はサービススペースです。
- 室内ユニット右側面には室温センサー用穴がありますので塞がないようにしてください。



## 埋込設置

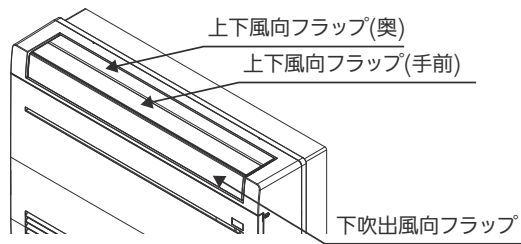
つづき

- 室内ユニットを設置の際は、ダクト上面から天面までの距離が100mm以上になるようにしてください。100mm以上無い場合、サービスができなくなる可能性があります。ダクトを室内ユニットに取付後、ダクトを室内ユニットから外すことはできません。
- 格子をつける場合、吹き出し口の風ができるだけ当たらないようにしてください。横棧が吹き出し口をさえぎるおそれのある場合は、「置台」(別売部品)などを使って高さを調節してください。吹き出し口が塞がれますと室温調整が正しく行われず、ショートサイクル・結露の原因になります。
- 受信部が格子の陰になりますと、リモコンからの信号を受ける距離や範囲(角度)が狭くなりますので、塞がないようにしてください。
- 格子の開口率は75%以上のものを使用してください。開口率75%未満のものを使用すると、性能低下の原因になります。
- 埋込設置の場合、エアコンを運転してから設定温度に達するまでの時間が遅くなります。
- 背面に隙間があく場合は、当て木や「背面パネル」(別売部品)などを使用して室内ユニットをしっかりと固定してください。
- 吹き出し口を格子へ突き当てる場合はインシュレーション材(現地手配)などで格子とダクトに隙間が出来ないようにしてください。隙間があるとショートサイクル・結露の原因になります。

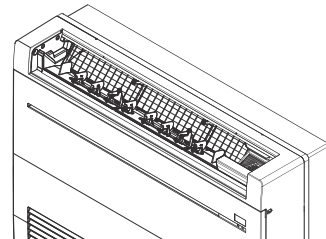
### 1 事前準備 (フラップの取外し)

- ダクトを取付ける前にフラップ3枚を取外します。

フラップ取外し前

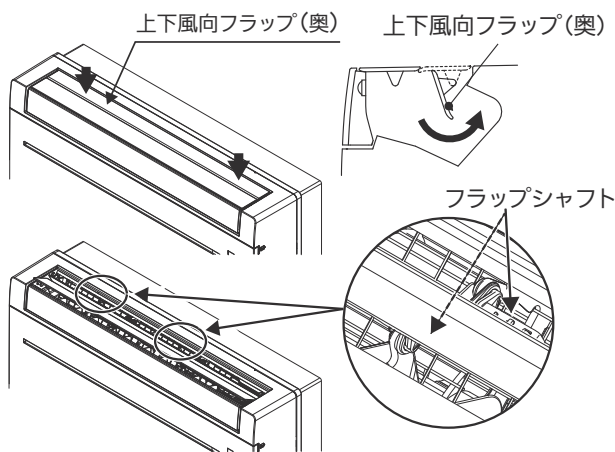


フラップ取外し後

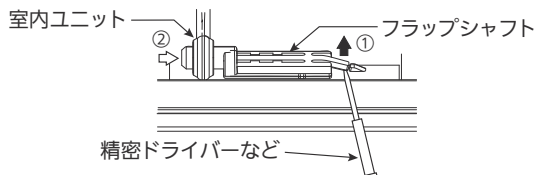


#### 1. 上下風向フラップ(手前/奥)の取外し

- (1) 上下風向フラップ(奥)の矢印の位置を指で押して開き、フラップの裏側にあるフラップシャフトを4個確認します。



- (2) フラップシャフトの溝に精密ドライバー等を差し込みフラップシャフトのツメを▲①の方向に上げてフラップのリブから外します。そのままフラップシャフトを⇨②の方向にスライドさせるとフラップシャフトが室内ユニットから外れます。(フラップシャフトは上下風向フラップの手前と上下風向フラップの奥 それぞれ2個ずつ外します)

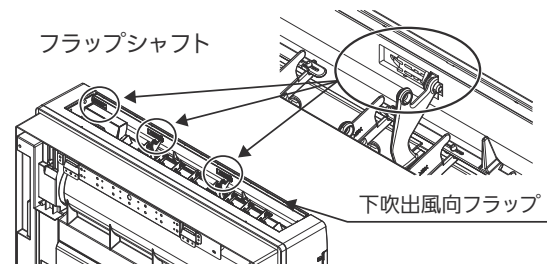


- (3) フラップをたわませながら上下風向フラップ(手前/奥)の両端の軸を室内ユニット本体から抜いて、上下風向フラップ(手前/奥)を取り外します。

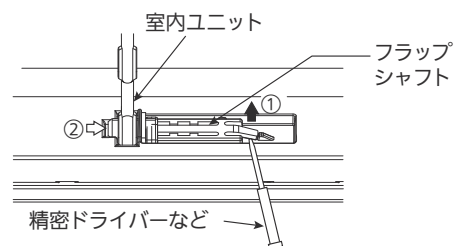
#### 2. 下吹出風向フラップの取外し

- ※上下風向フラップ(手前/奥)を取外してから作業してください。

- (1) 下吹出風向フラップの裏側にあるフラップシャフト3個を確認します。



- (2) 下吹出風向フラップとフラップシャフトの隙間に精密ドライバー等を差し込みフラップシャフトのツメを▲①の方向に上げて下吹出風向フラップのリブから外し、そのままフラップシャフトを⇨②の方向にスライドさせるとフラップシャフトが室内ユニットから外れます。



- (3) 3個のシャフトを全て外した後、下吹出風向フラップの片側の軸を室内ユニット本体から抜いて、下吹出風向フラップを取り外します。

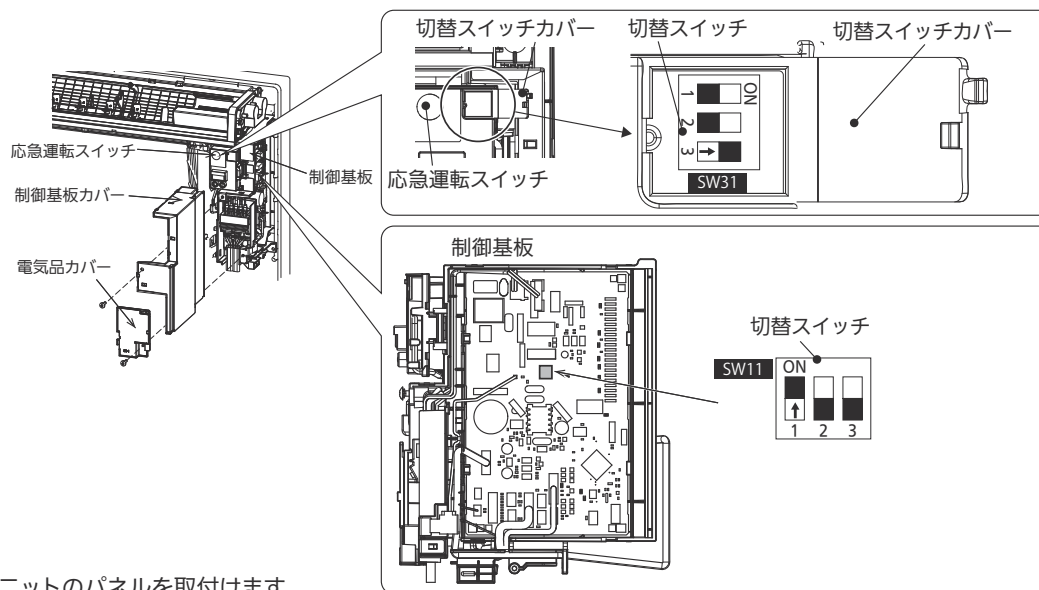
裏面へつづく 2

## 2 運転前準備

### 設置場所切替の設定(必ず行ってください)

- 設定を行わないと、内部に熱がこもり、室温調節が正常に行われません。また、結露などの原因になります。
- 電源ブレーカが切れていることを確認してください。
- 静電気による制御基板の破損防止のため、必ず静電気除去を行ってから作業してください。

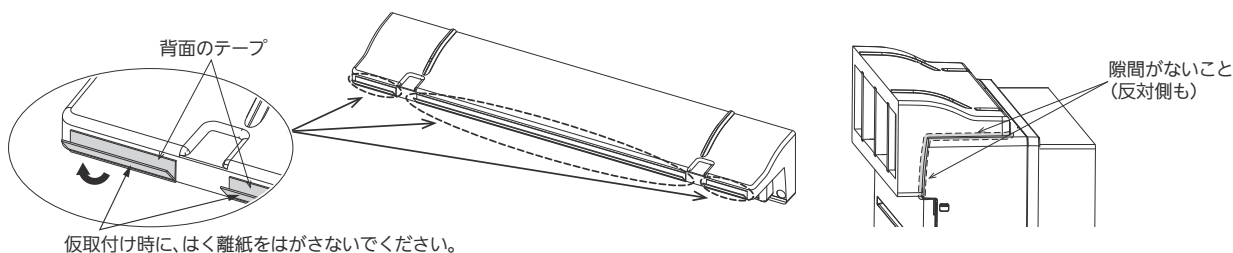
1. 室内ユニットのパネルを取外します。  
※パネルの取外し方法の詳細は、室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。
2. 切替スイッチカバーを開けて基板の切替スイッチを図のように切替えます。
3. 制御基板の切替スイッチを図のように切替えます。
  - (1) 室内ユニットの電気品カバーと制御基板カバーのネジを外し、電気品カバーと制御基板カバーを外します。
  - (2) 制御基板の切替スイッチ(SW11)を図のように切替えます。
  - (3) 切替作業が終わったら制御基板カバーと電気品カバーを取付け、制御基板カバーと電気品カバーのネジを固定してください。
  - 制御基板カバーを取付ける際に、リード線をはさまないようにしてください。



4. 室内ユニットのパネルを取付けます。

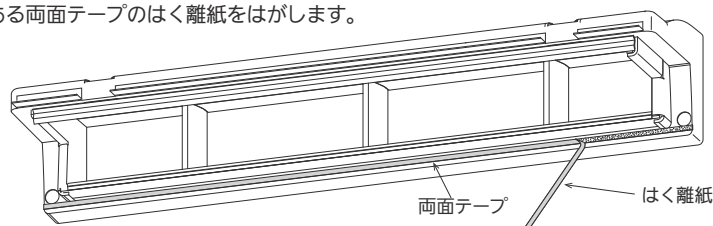
## 3 仮取付け

1. ダクト①背面のテープ3枚を下図のように折って折り目をつけます。
  2. 背面のテープを巻き込んでいないことを確認しながらダクト①を吹出し口へ仮取付けします。
- ダクト①を室内ユニットへ両面テープによって固定するため、取付け後の修正はできません。事前に仮取付けをして取付状態を確認してください。

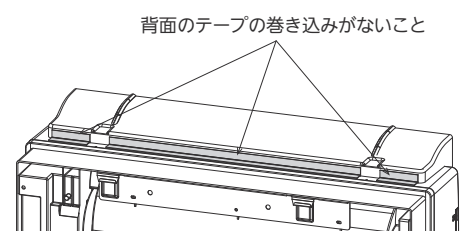
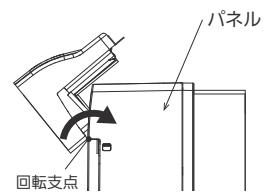


## 4 ダクトの固定

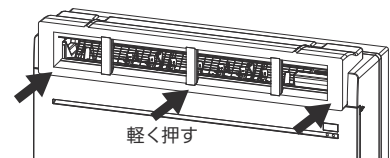
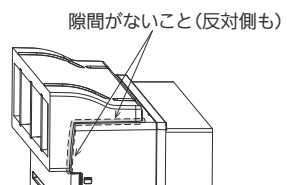
1. ダクト①下側の裏にある両面テープのはく離紙をはがします。



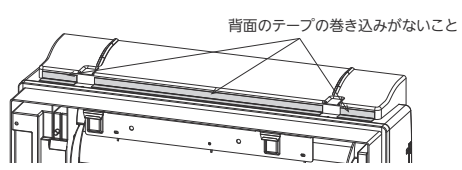
2. ダクト①下側の裏のカドを支点にして図のようにダクト①を回転させながら室内ユニット吹出し口に差込みます。
- 背面のテープを巻き込んでいないか確認してください。



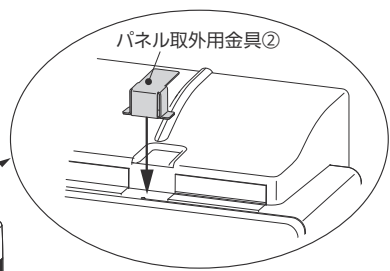
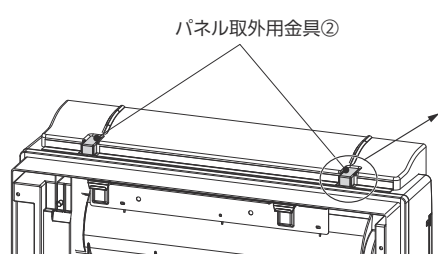
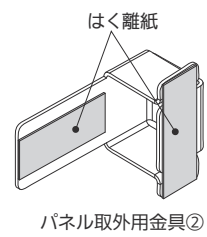
3. パネルとダクト①に隙間がないことを確認して、ダクト①下側を全体的に軽く押してダクト①をパネルに接着します。
- ダクト①を強く押しつけないでください。(破損する可能性があります)



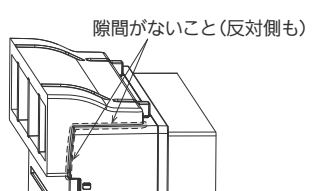
4. ダクト①背面のテープ3枚のはく離紙をはがし、ダクト①の背面をパネルに固定します。



5. パネル取外用金具②の裏側にあるはく離紙をはがし、図のように取付けます。



- 完成後、下図のように正しく取付けられているか確認をしてください。

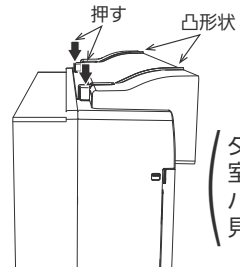
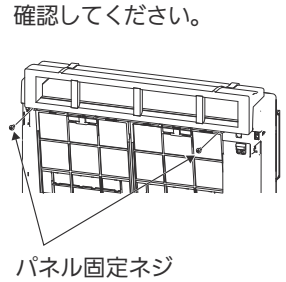


**お願い** この後の据付作業などについては室内ユニットの据付工事説明書に従い作業してください。

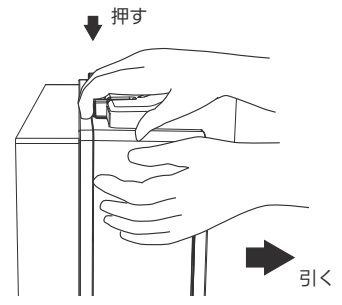
**【参考】ダクト据付後のパネル取外し方法**

- ダクト据付後にパネルを取外す際は、パネル取外用金具②の図の▼部分を押しながら手前に引くとパネルが外れます。(片方ずつ行ってください)

※パネル固定ネジが外してあることを確認してください。



(ダクト上部の凸形状部を室内ユニットの奥にたどると、パネルの取外用金具が見つけ易くなります)



# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

品名

床置形用壁掛金具

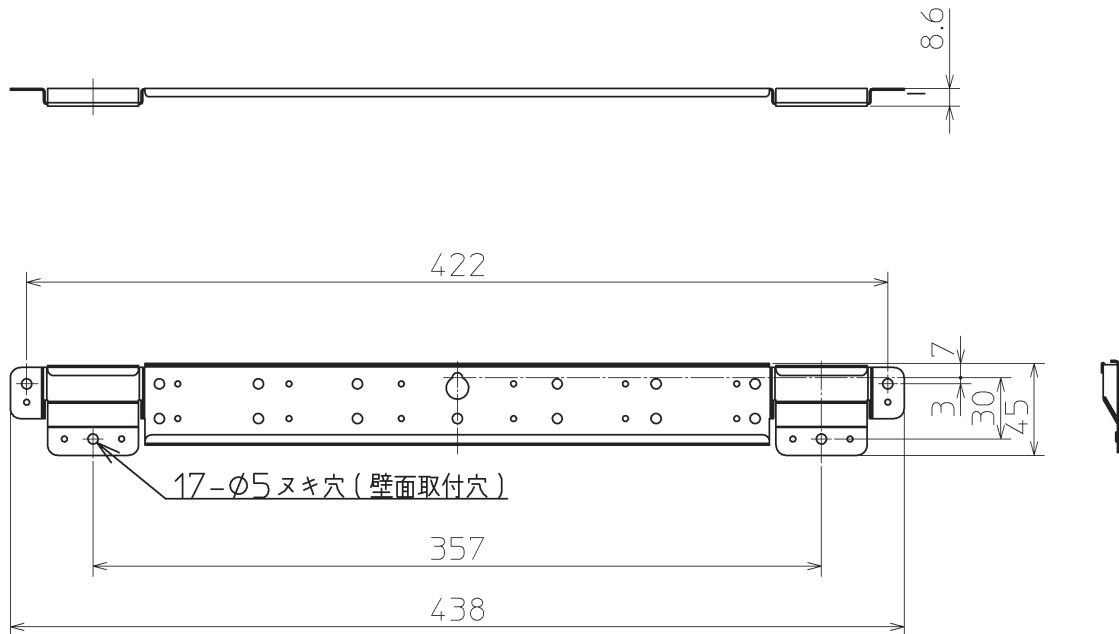
形名

MAC-300BP

## 1.仕様

項目		内容
外装	色(マンセルNo.)	素地
	表面処理	素地
	材質	SGCC(スチール)
質量		130g

## 2.外形図



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

形名

MAC-300BP



三菱電機株式会社

第3角法  
単位:mm

作成日  
2007-2-9

図  
番

DK01B342

副番



三菱ハウジングエアコン 別売床置形用壁掛金具

形名 MAC-300BP

**据付工事説明書** 販売店・工事店さま用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書と室内ユニットの据付工事説明書を必ずお読みください。

**安全のために必ずお守りください**

- ご使用前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、取扱説明書とともに、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



**警告**

(誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの)

- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。据付けには専門の知識と技術が必要です。お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガなどの原因になります。



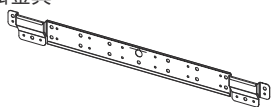

- 据付けは、据付工事説明書に従って確実にを行う。据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。



- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。



**使用部品**

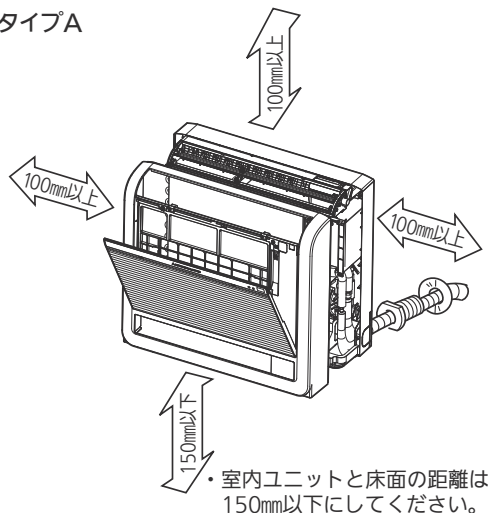
	①	②
部品	壁掛金具 	①の固定用ネジ 
個数	1	4×25mm 5

タイプA  
( MFZ-\*\*\*AS シリーズ  
MFZ-H\*\*\*S シリーズ

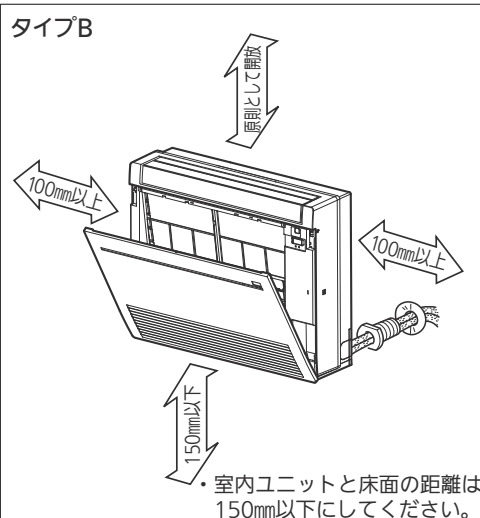
タイプB  
( MFZ-K\*\*\*AS シリーズ  
MFZ-K\*\*\*S シリーズ  
MFZ-HK\*\*\*S シリーズ

**サービススペース**

タイプA



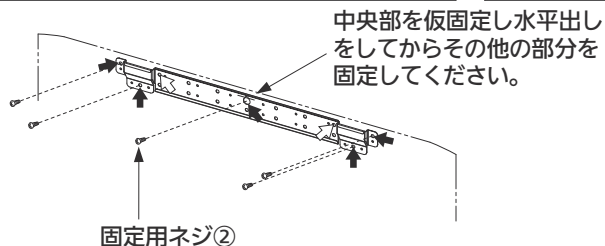
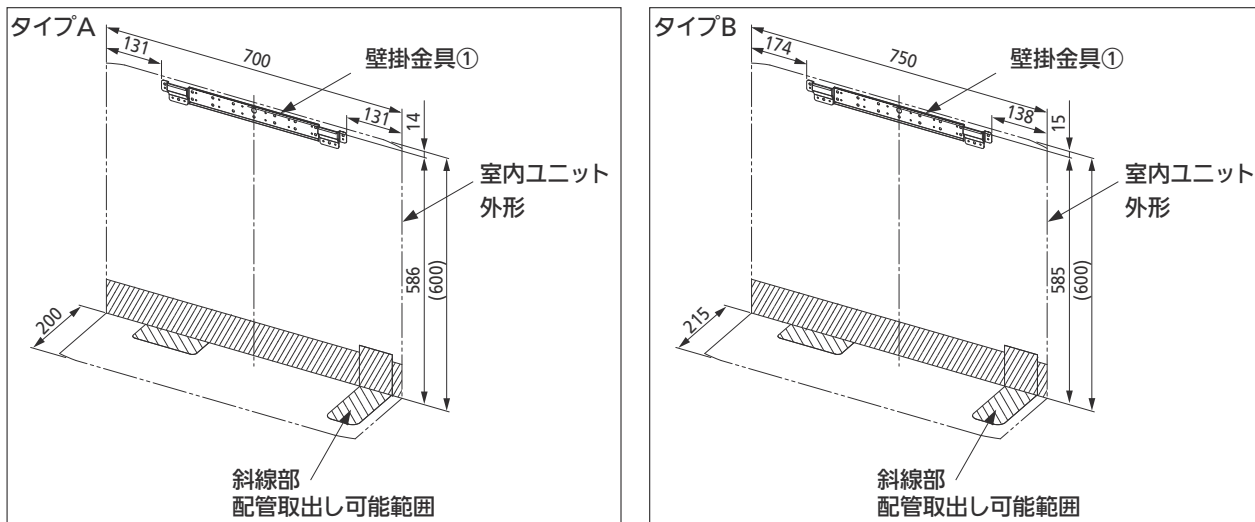
タイプB





## 1 壁掛金具の取付け

- 壁内の構造体(間柱など)をさがして強固に取付けてください。
- 水準器などを使用し水平に取付けてください。
- 室内ユニットを床面から浮かせる場合は、床面と室内ユニット下面の距離が150mm以下になるように取付けてください。

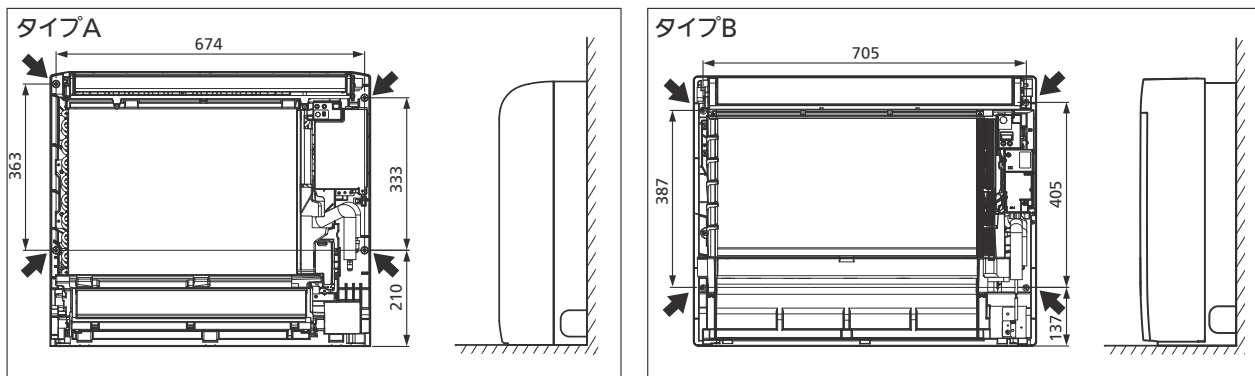


壁掛金具①の微振動を防ぐため、◀位置の穴は必ず固定してください。  
 ◁部も可能な限り固定してください。(ネジは現地手配)

## 2 室内ユニットの据付け

- 配管工事を行う前に固定してください。
- 取付けた壁掛金具に室内ユニット上部を引掛けます。
- 室内ユニット付属の木ネジ・座金にて、室内ユニット上部と中央部各2か所(◀位置の合計4か所)を固定します。

● 室内ユニットを壁に確実に固定し、必ず壁との間に隙間ができないように据付けてください。



三菱電機株式会社 静岡製作所 〒422-8528 静岡市駿河区小鹿 3-18-1

# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

品名

床置形用ドレンアップメカ

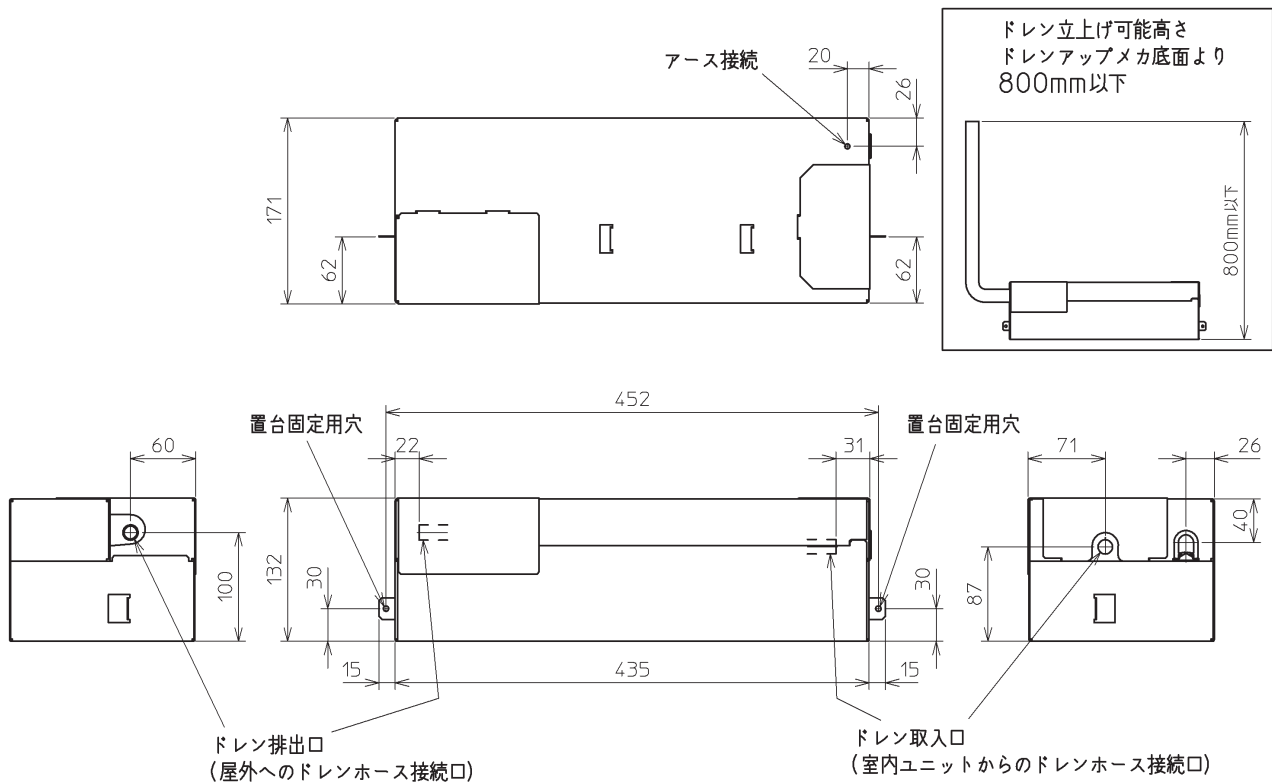
形名

MAC-862DM

## 1.仕様

項目	内容
定格電圧	AC200V 50/60Hz
運転電流	114/92mA以下
消費電力	12/10.8W以下
ドレン揚程	ドレンアップメカ底面より800mm以下
ドレン配管	付属ドレンホース(ドレン排出口側)を使用
吐出水量	400cc/min(揚程800mm時)
付属品	取付ネジ(ST4×10)×2、アース線×1
	ドレンホース(ドレン取入口側:320mm)×1
	ドレンホース(ドレン排出口側:1400mm)×1
備考	使用時は置台(MAC-311TD),背面パネル(MAC-316HP)が必要

## 2.外形図



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

形名

MAC-862DM

三菱電機株式会社

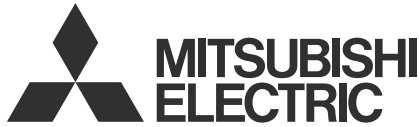
第3角法  
単位:mm

作成日  
2014-4-29

図番

DK01B779

副番



三菱ハウジングエアコン 別売 床置用ドレンアップメカ  
 形名 MAC-862DM  
**据付工事説明書** 販売店・工事店さま用

**用語集**

品名	形名
置台	MAC-311TD
背面パネル	MAC-316HP

- このドレンアップメカは床置形機種 MFZ-K/HKシリーズ専用部品です。
- ドレン配管の下りこう配が十分確保できない場合にお使いください。
- 本部品の使用には、別売部品の置台と、背面パネルが必要です。  
※本部品だけの使用はできません。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。  
 据付工事前にこの据付工事説明書と室内ユニットおよび別売部品の置台、背面パネルの据付工事説明書を必ずお読みください。

**安全のために必ずお守りください**

- ご使用前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。



**警告**

(誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの)

- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。  
据付けには専門の知識と技術が必要です。お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガなどの原因になります。



- 据付けは、据付工事説明書に従って確実にを行う。  
据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。  
当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。



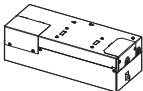

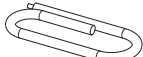


**注意**

(誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの)

- ドレン・配管工事は、据付工事説明書に従って確実にを行う。  
ドレン・配管工事に不備があると、ユニットから水が滴下して家財などを濡らし、汚損の原因になることがあります。



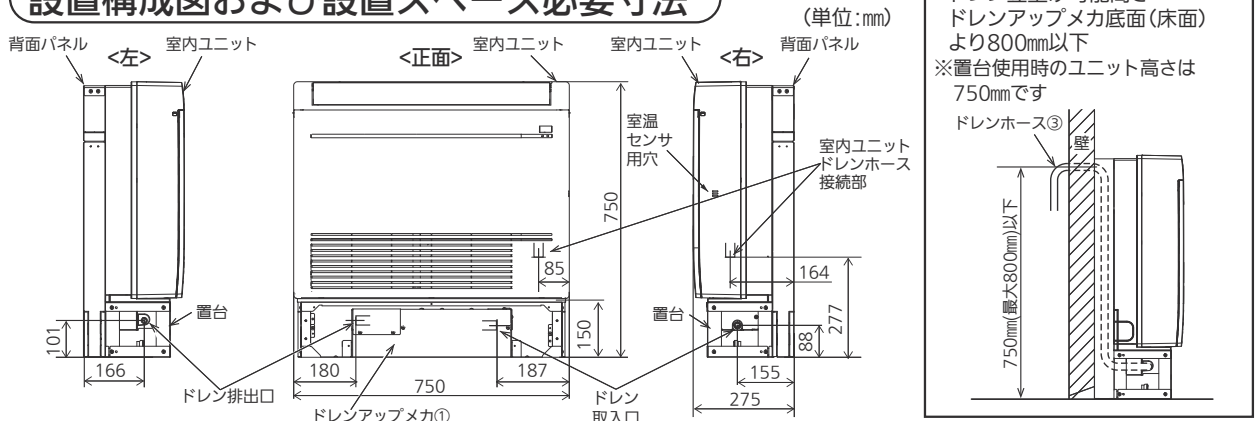
**使用部品**

	①	②	③	④	⑤
部品	ドレンアップメカ 	ドレンホース 室内ユニット～ ドレンアップメカ接続用 	ドレンホース ドレンアップメカ～ 現地配管接続用 	アース線 	ドレンアップメカ 固定用ネジ  (タッピングネジ4×10)
個数	1	1	1	1	2

- 現地で準備していただくもの  
 ④ 塩ビ系接着剤 ⑤ ホース固定用バンド(ホース外径:φ32mm) ⑥ 延長ドレンホース、軟質塩ビホース(内径:15mm)



## 設置構成図および設置スペース必要寸法

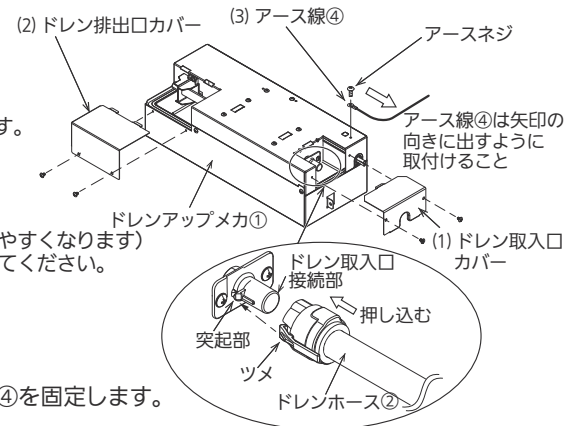


## 1 事前準備

### <ドレンアップメカ>

#### (1) ドレンホース②の接続

- 1) ドレン取入口カバーのネジを外し、カバーを外します。
- 2) ドレンホース②をドレンアップメカ①のドレン取入口に差込みます。
  - ドレンホース②の両端は同形状です。室内ユニット側、ドレンアップメカ側どちらにも取付けられます。
  - 水漏れを防ぐために挿入が固くなっています。ドレンアップメカ①のドレン取入口接続部にある突起にドレンホース②のツメを確実に「カチッ」とはまるまで押込んでください。(ドレンホース②を左右に少し振りながら前に押込むとはまりやすくなります)
  - ドレンホース②を取付け後、引っ張って抜けないことを確認してください。
- 3) ドレン取入口カバーを取付け、ネジで固定してください。



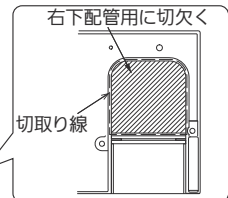
### <置台、背面パネル>

置台、背面パネルの据付工事説明書に従って設置場所に固定します。

### <室内ユニット>

室内ユニット右底部を右下配管用にニッパー等を使用して切欠きます。

室内ユニット底部を下から見たところ

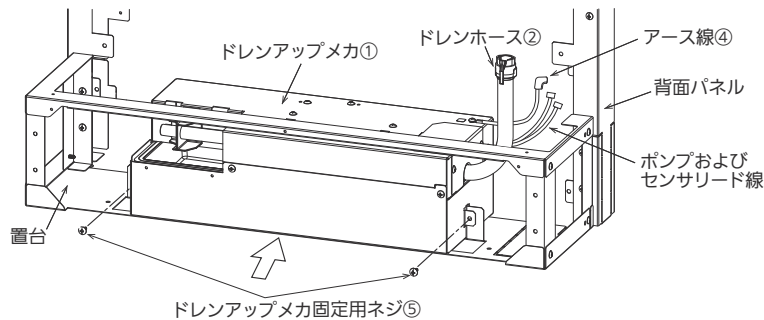


## 2 ドレンアップメカの取付け

#### (1) ドレンアップメカ①の取付け(室内ユニットを設置する前に実施してください)

ドレンアップメカ①を図のように前方より挿入させて置台内に設置した後、ドレンアップメカ固定用ネジ⑤で固定してください。

- ドレンホース②、ポンプおよびセンサのリード線、アース線④は **3 室内ユニットの設置** の際に室内ユニット設置の妨げにならないようにしてください。

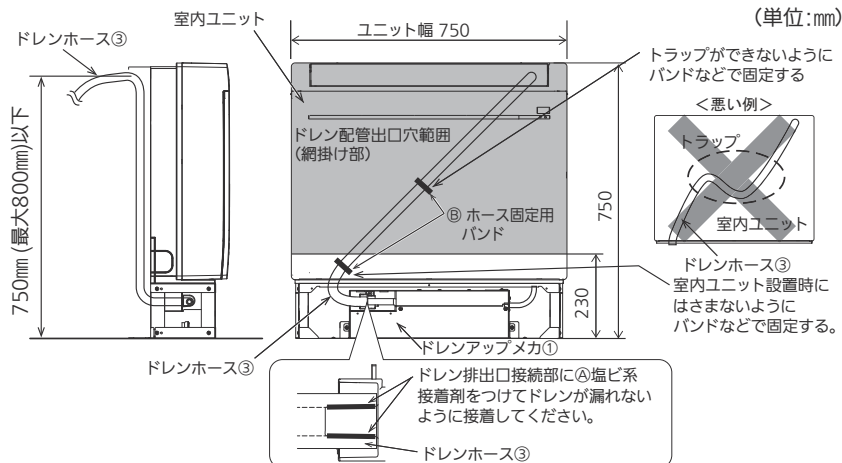
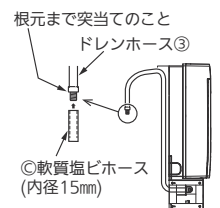


裏面へつづく **2**

## (2) ドレンホース③の接続

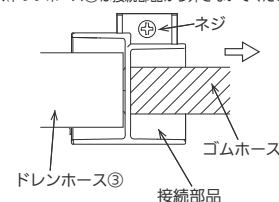
ドレンホース③は現地配管からの取回し完了後にドレンアップメカ側を切断し、長さを調整してください。その後、④ 塩ビ系接着剤を塗布し、ドレン排出口接続部の根元まで差込み、漏れないように接着してください。

- ドレン配管の出口高さは下図の範囲内で施工してください。
- ドレンホース③は途中にトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に設置してください。
- ドレン出口を上げた後、下りこう配1/100以上になるように施工してください。
- ドレンホース③が短い場合は、右図の方法で配管してください。



(ドレンホース③を接着後に、ドレンアップメカ①を取外す場合)

ドレンホース③を接着後に、ドレンアップメカ①を取外す場合、以下のように作業してください。  
 ア. ゴムホースを引っ張って接続部品から取外します。  
 イ. 接続部品のネジを取外します。  
 ウ. ドレンホース③と接続部品をドレンアップメカ①から取外した後、ドレンアップメカ①を取外します。  
 ※ドレンホース③は接続部品から外さないでください。



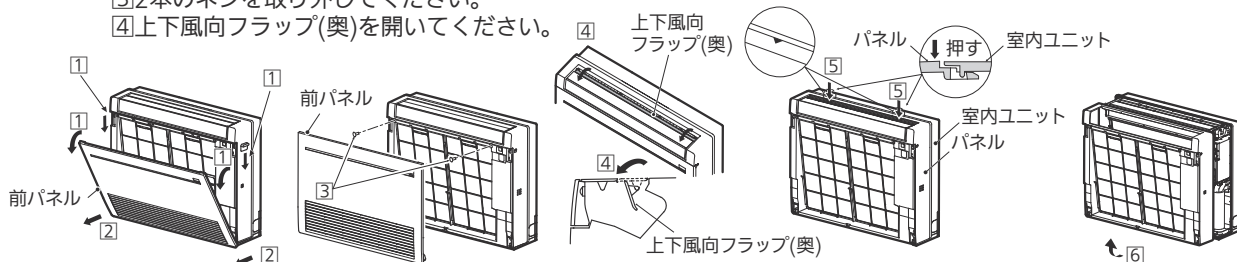
## 3 室内ユニットの設置

お願い

室内ユニット設置の詳細については室内ユニットおよび置台、背面パネルの据付工事説明書をご覧ください。

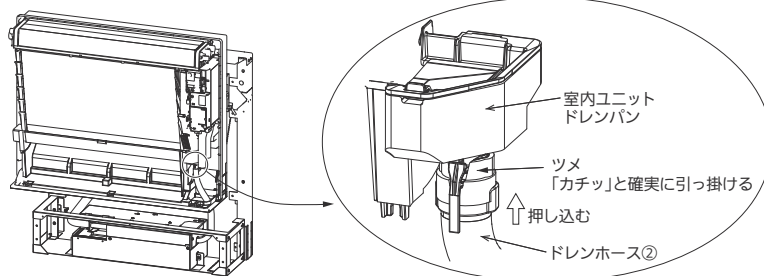
(1) 室内ユニットの前パネルとパネルを①～⑥の手順で取外します。

- ①パネル左右側面にあるツマミを下げながら前パネルを手前に開いてください。
- ②前パネルを外してください。
- ③2本のネジを取り外してください。
- ④上下風向フラップ(奥)を開いてください。
- ⑤パネルの上面2か所(▼マーク部分)を押し、パネルの上側を外して手前に引いてください。
- ⑥パネルを上を持ち上げながら、外してください。



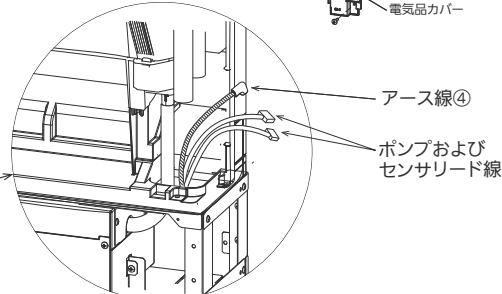
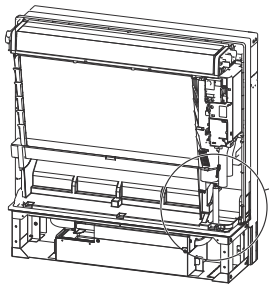
(2) 室内ユニットのドレンホースを取外します。

- (3) ドレンホース②、ドレンホース③、アース線④、ポンプおよびセンサのリード線に注意し、室内ユニットを置台、背面パネルに固定します。
- (4) ドレンホース②を室内ユニットの接続部に接続します。このとき、室内ユニットの接続部にある突起に、ドレンホース②のツメを確実に引っ掛けてください。
  - ドレンホース②を引っ張って、抜けないことを確認してください。

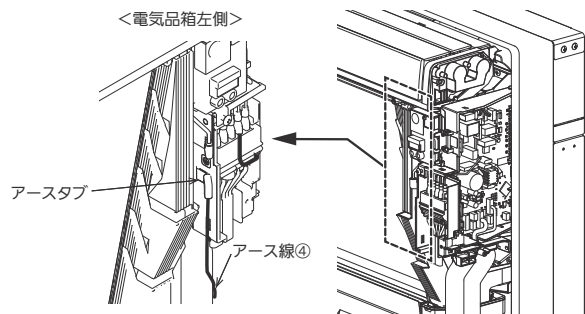
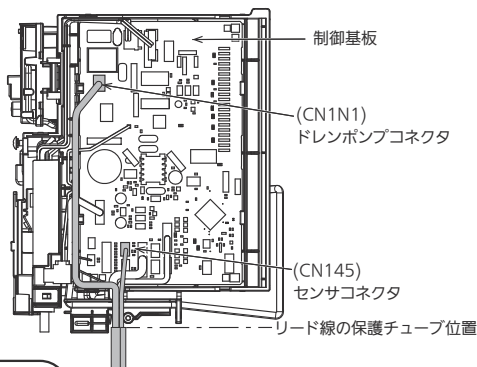


## 4 ドレンアップメカの配線接続

- 電源ブレーカーが切れていることを確認してください。
  - 静電気による制御基板の破損防止のため、必ず静電気除去を行ってから作業してください。
- (1) 室内ユニットの電気品カバーと制御基板カバーのネジを外し、電気品カバーと制御基板カバーを外します。
  - (2) ドレンアップメカ①から出ているドレンポンプとセンサのリード線とアース線④を室内ユニットの右下配管用の穴から通し、室内ユニット側に出します。



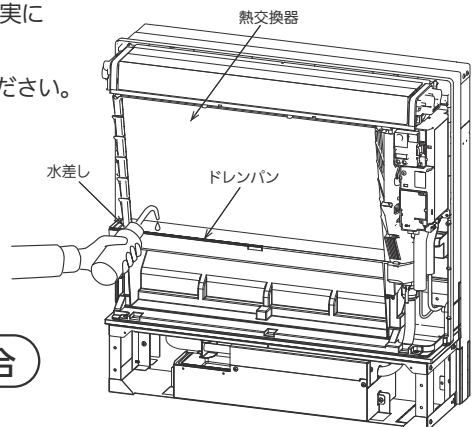
- (3) ドレンポンプのコネクタを制御基板上的コネクタ(CN1N1)へ接続します。
- (4) センサのコネクタを制御基板上的コネクタ(CN145)へ接続します。
- (5) アース線④のタブを電気品箱左側にあるタブに差込みます。
  - コネクタおよびタブはロックが「カチッ」とはまるまで、しっかりと押し込んで接続します。
- (6) リード線は図のように取回してください。
- (7) 接続作業が終わったら制御基板カバーと電気品カバーを取付け、制御基板カバーと電気品カバーのネジを固定してください。
  - 制御基板カバーを取付ける際に、リード線をはさまないようにしてください。



## 5 試運転

ドレンアップメカ①の取付けおよびドレン配管・電源工事完了後、排水が確実に行われていること、接続部からの水漏れが無いことを確認してください。

- 室内ユニットの据付工事説明書の(試運転)の項とあわせて行ってください。
  - はじめに冷房で試運転を実施してください。
- (1) 700cc~800ccぐらいの水を図のように熱交換器下部のドレンパンに水差しなどで徐々に入れてください。
  - (2) ドレンアップメカ①が作動し、正常に排水するか確認してください。
  - (3) ホース接続部から水が漏れていないことを確認してください。
  - (4) ドレン排出口カバーを取付けてください。
  - (5) 置台のカバーを取付けてください。
  - (6) 室内ユニットのパネルおよび前パネルを取付けてください。



### 室内ユニットのみでドレン排水チェックをしたい場合

配線工事ができていないときは、室内端子台S1,S2に単相200V電源を接続して行ってください。

- (1) ドレンポンプ試運転モード
  - 応急運転スイッチを5秒長押し(ピッと鳴るまで)にて、ドレンポンプ単独運転を開始します。
- (2) ドレンポンプ試運転モード停止
  - 応急運転スイッチをもう一度押しと停止します。そのままでも、15分後に自動停止します。

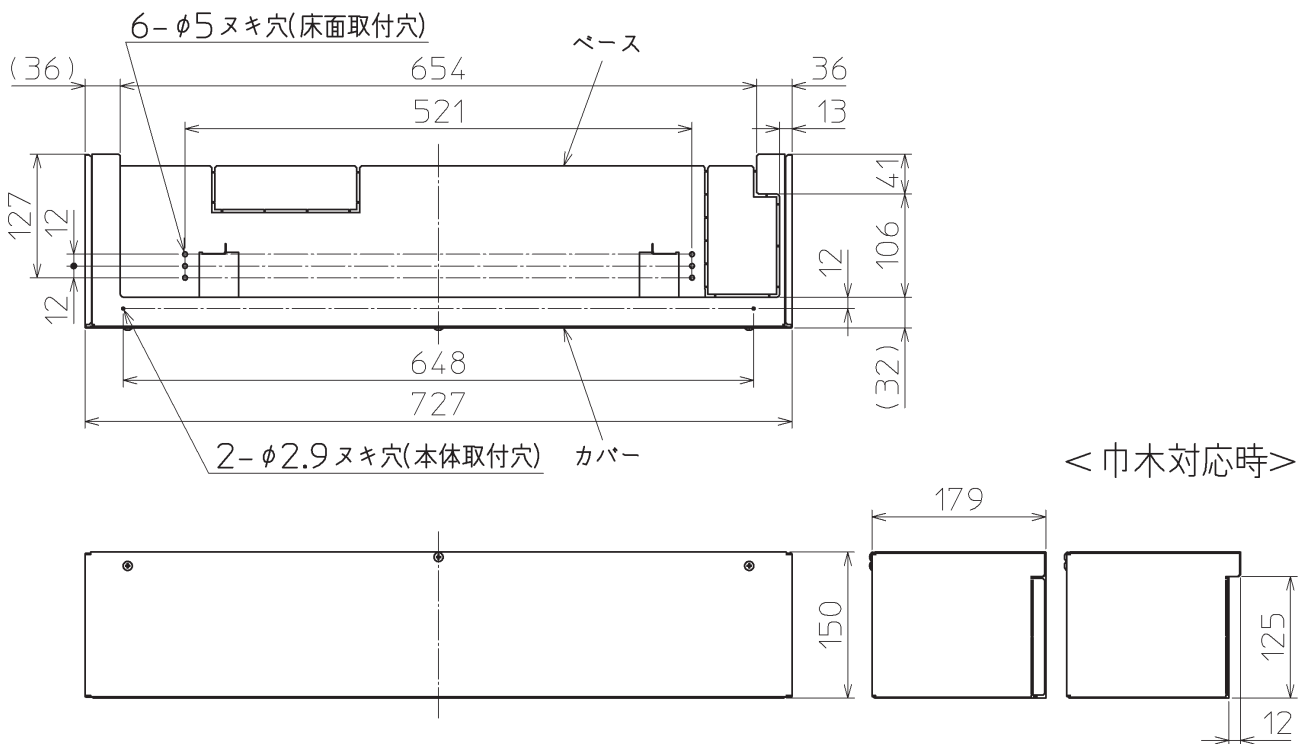
# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

品名	置台	形名	MAC-311TD
----	----	----	-----------

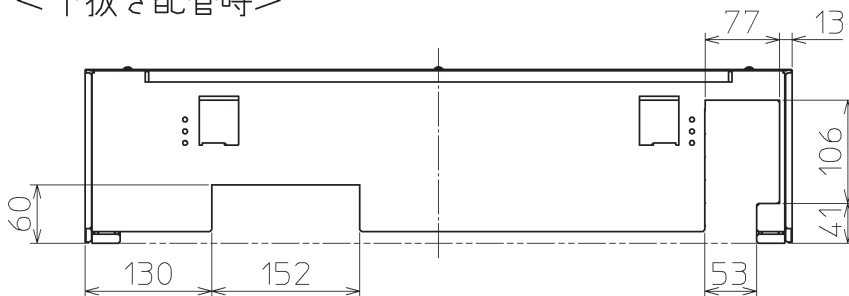
## 1.仕様

項目	内容
外装	色(マンセルNo.) カバー：ブラック(N2),ベース：素地
	表面処理 カバー：アクリル塗装,ベース：素地
	材質 カバー・ベース：SGCC(スチール)
質量	2.7kg
付属品	仕上用シールX2

## 2.外形図



### <下抜き配管時>



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書		形名	MAC-311TD
---------------------	--	----	-----------

三菱電機株式会社	第3角法	作成日	DK01B781	副番
	単位:mm	2014-5-13		

MFZ-HK

資料 5

別売部品 (MAC311TD)



三菱ハウジングエアコン 別売 置台  
 形名 MAC-311TD  
**据付工事説明書** 販売店・工事店さま用

**用語集**

品名	形名	呼称
背面パネル	MAC-316HP	背面パネル
床置用ドレンアップメカ	MAC-862DM	ドレンアップメカ

- 本製品はドレン配管の勾配を確保できるよう、壁穴位置を高くするための部品です。  
 また、クリーンヒータ等の給排気用の壁穴を再利用して据付ける際に、既設の穴高さまでドレン水を汲み上げるドレンアップメカを収納するための部品です。
- 背面パネルおよびドレンアップメカを使用する場合は、据付工事の前に背面パネルおよびドレンアップメカの据付工事説明書をよくお読みください。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。  
 据付工事前にこの据付工事説明書と室内ユニットの据付工事説明書を必ずお読みください。  
 また、置台のカバー脱着のために、障害物が置台正面にないことを確認してください。

**安全のために必ずお守りください**

- ご使用の前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。



**警告**

(誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの)

- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。  
 据付けには専門の知識と技術が必要です。  
 お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
 強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガなどの原因になります。



- 据付けは、据付工事説明書に従って確実に行う。  
 据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。



- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。  
 当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。



**注意**

(誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの)

- 切断部のエッジはヤスリ等で処理する。  
 切断部のエッジによるケガの原因になります。

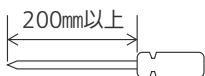


**使用部品**

部品	① カバー 	② ベース上 	③ ベース下 	④ 支柱 
個数	1	1	1	4
部品	⑤ ベース組立用ネジ  タッピングネジ4×10	⑥ カバー固定用ネジ  タッピングネジ(黒)4×10	⑦ 床/室内ユニット固定用ネジ  タッピングネジ4×25	⑧ 仕上用シール 
個数	8	3	4	2

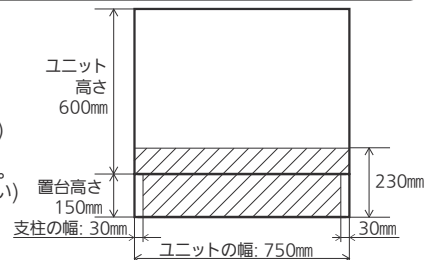
**使用工具**

- a)軸の長さ200mm以上の  
 プラスドライバー  
 b)ニッパー  
 c)ヤスリ



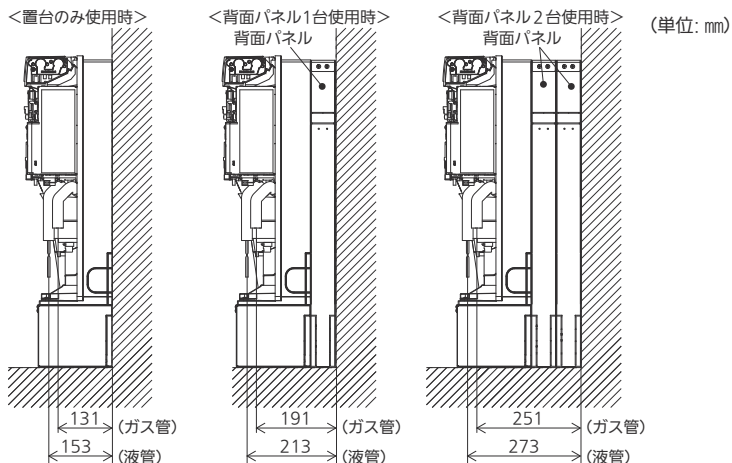
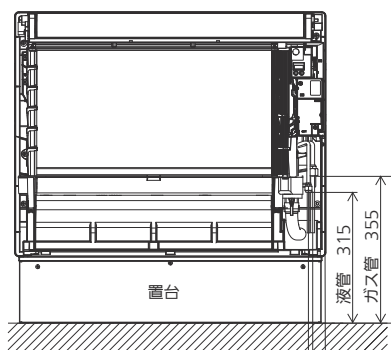
**配管取出し可能範囲**

- 図中の斜線の部分は、置台のみを使用した場合の配管取出しの可能な範囲です。  
 (右図は室内ユニットと置台を正面から見た図です)
- 図中の斜線の部分より左右に配管取出しをする場合は、室内ユニットの加工が必要になります。  
 (室内ユニットの据付工事説明書を参照してください)
- ドレン水の排水のため、下りこう配を1/100になるように施工してください。





## 接続配管の位置



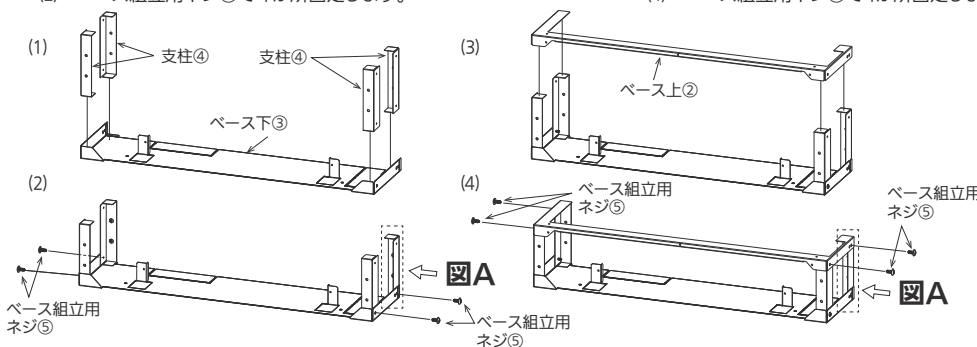
**お願い**  
 隠蔽設置寸法等については、「フロアビルトイン用ダクトセット (別売部品MAC-760FD)」の据付工事説明書をご確認ください。

## 1 事前準備

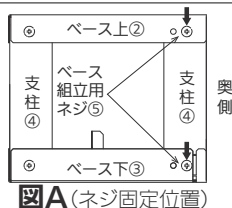
置台ベースを組み立てます。

### 置台のみを使用する場合

- ベース下③と支柱④を下図のように配置します。
- ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
- ベース上②を下図のように配置します。
- ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。



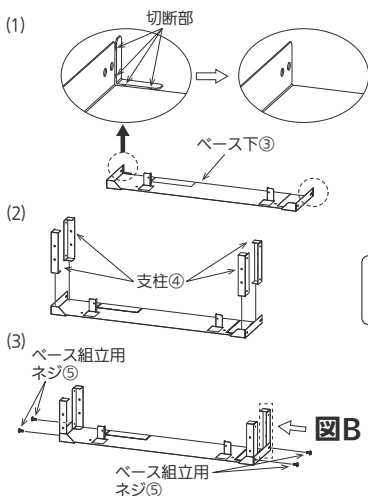
**巾木がない場合**  
 置台の奥側支柱④を固定するベース組立用ネジ⑤は、↓のネジ穴を使用してください。



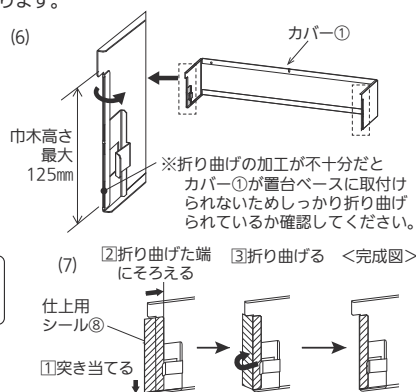
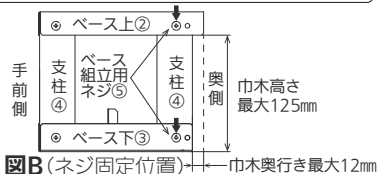
### 置台のみを使用する場合(巾木がある場合) (巾木を避けて据付けることができます)

**お願い** 背面パネル併用時には切断や折り曲げをしないでください。

- ベース下③の左右にあるそれぞれの切断部4か所をニッパー等を使用して切断します。
- ベース下③と支柱④を下図のように配置します。
- ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
- ベース上②を下図のように配置します。
- ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
- カバー①の左右にある折り曲げ部から内側に折り曲げます。
- カバー①の左右にある折り曲げ部2か所に仕上用シール⑧を下図のように貼ります。



**巾木がある場合**  
 置台の奥側支柱④を固定するベース組立用ネジ⑤は、↓のネジ穴を使用してください。



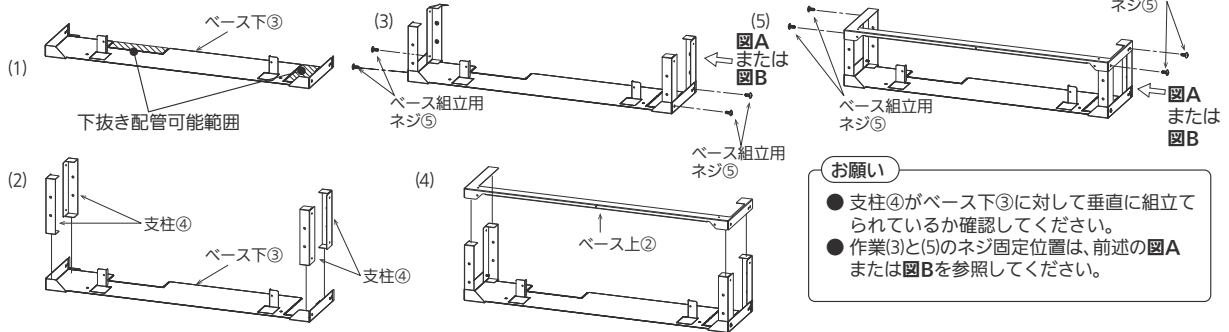
**お願い** 仕上用シール⑧は、しわにならないように貼り付けてください。

裏面へつづく 2

## 下抜き配管する場合

※据付場所に巾木がある場合は前述の  
置台のみ使用する場合(巾木がある場合)を参照してください。

- (1) ベース下③の左右2か所にある下抜き用切断部のうち下抜き配管位置に応じてニッパー等を使用して切断します。
- (2) ベース下③と支柱④を下図のように配置します。
- (3) ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
- (4) ベース上②を下図のように配置します。
- (5) ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。

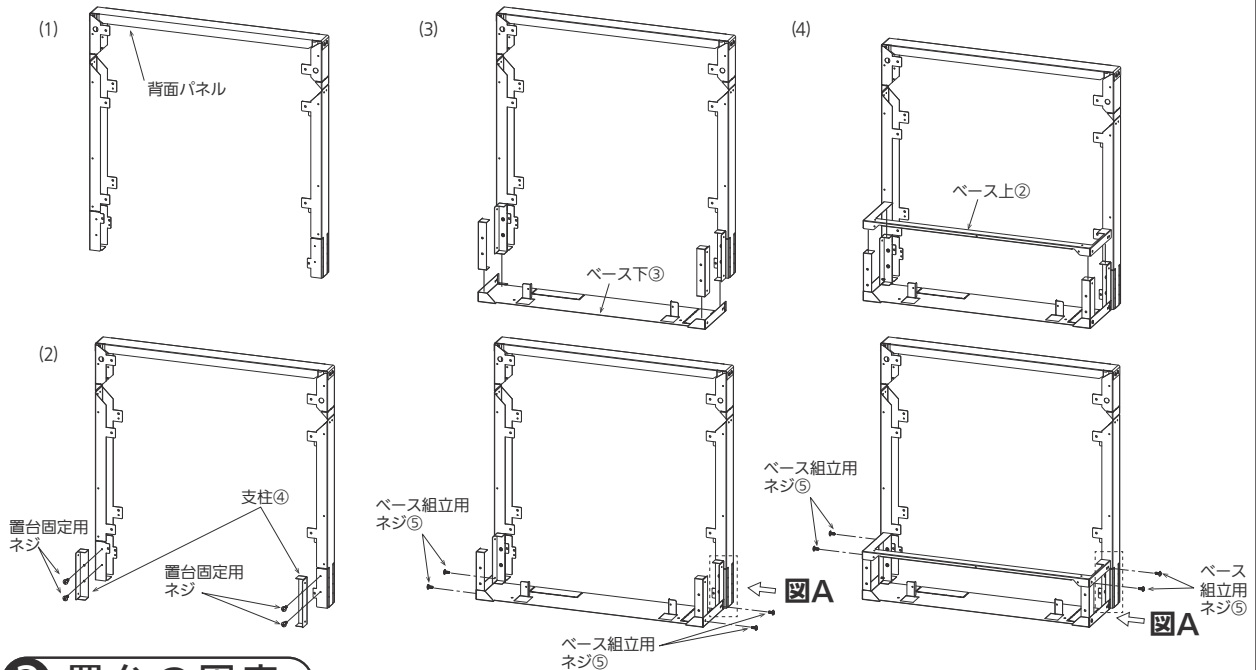


## 置台と背面パネルを併用する場合

- (1) 背面パネルを組立てます。(背面パネルの据付工事説明書を参照してください)
  - (2) 支柱④と背面パネルを置台固定用ネジ(背面パネル付属部品)で下図のように4か所固定します。
  - (3) ベース下③を下図のように配置し、ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
  - (4) ベース上②を下図のように配置し、ベース組立用ネジ⑤で4か所固定します。
- ※つづきは、背面パネルの据付工事説明書を参照してください。

### お願い

- 据付け場所に巾木がある場合は、背面パネルの据付工事説明書を参照し、加工してください。
- 置台の巾木処理は実施しないでください。
- 作業(3)と(4)のネジ固定位置は、前述の図Aを参照してください。

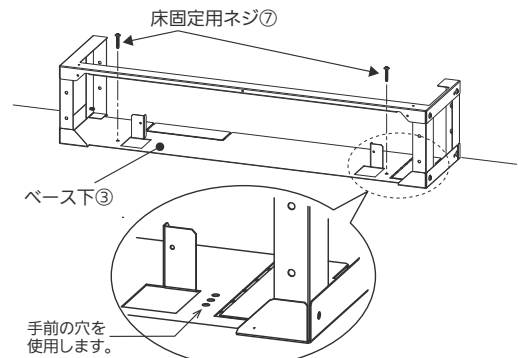


## 2 置台の固定

- (1) 置台を壁に突き当てます。
- (2) ベース下③を床固定用ネジ⑦で2か所固定します。

### お願い

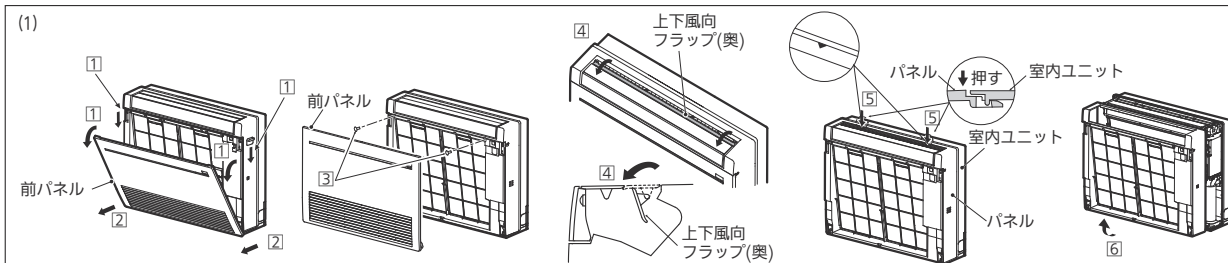
- 置台と背面パネルを併用する場合も固定方法は同じです。
- 置台を壁に突き当てる際に壁との隙間がないことを確認してください。
- 床固定用ネジ⑦で床と置台を固定する際に、一度使用したねじ穴は再使用しないで、奥のねじ穴を使用して固定してください。



### 3 室内ユニットの固定

- (1) 室内ユニットの前パネルとパネルを①～⑥の手順で取外します。
- ① パネル左右側面にあるツマミを下げながら前パネルを手前に開いてください。
  - ② 前パネルを外してください。
  - ③ 2本のネジを取外してください。

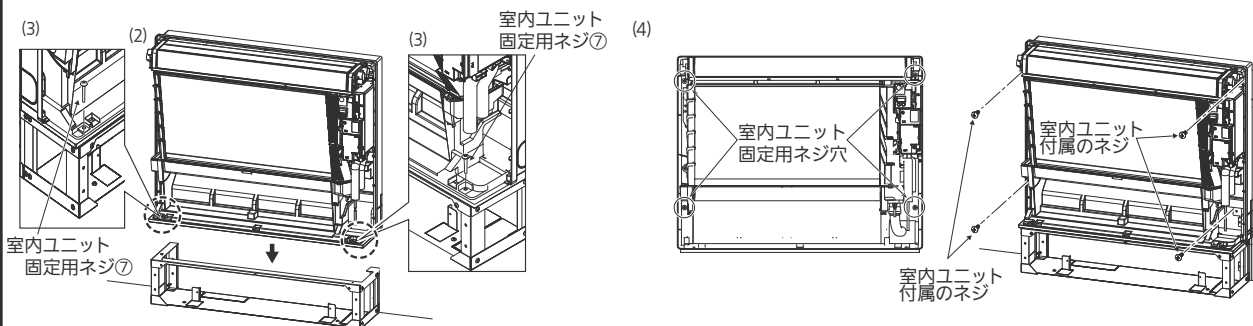
- ④ 上下風向フラップ(奥)を開いてください。
- ⑤ パネルの上面2か所(▼マーク部分)を押し、パネルの上側を外して手前に引いてください。
- ⑥ パネルを上を持ち上げながら、外してください。



- (2) 室内ユニットを置台の上に乗せます。
- (3) 室内ユニットを置台上に室内ユニット固定用ネジ⑦で2か所固定します。
- (4) 室内ユニット付属のネジにて室内ユニットを壁、または背面パネルにプラスドライバー(軸の長さ200mm以上)で4か所固定します。

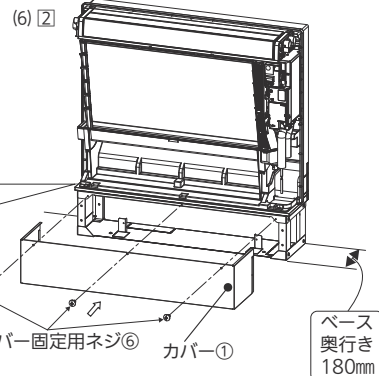
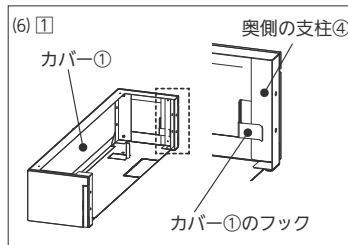
- (5) 配管とドレンホースの据付け、電気配線を行います。

お願い 室内ユニットの据付工事説明書を参考に作業を行ってください。



- (6) カバー①を取付けます。
- ① カバー①の左右にあるフックが奥側の支柱④を挟むように奥側へ押ししてください。
  - ② カバー①をベース上②にカバー固定用ネジ⑥で3か所固定します。

お願い カバー①は奥まで確実に挿入してください。

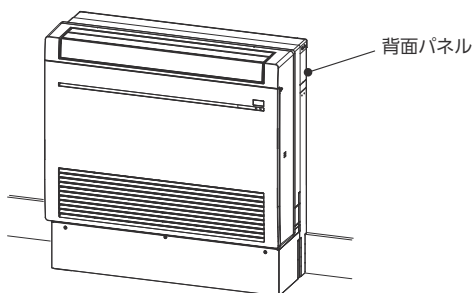
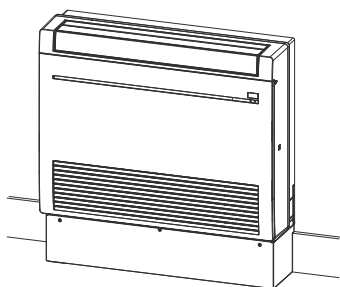


お願い この後の据付作業などについては室内ユニットの据付工事説明書に従い作業してください。

<完成図>

置台のみを使用する場合 (巾木がある場合)

置台と背面パネルを併用する場合 (巾木がある場合)



# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

品名

背面パネル

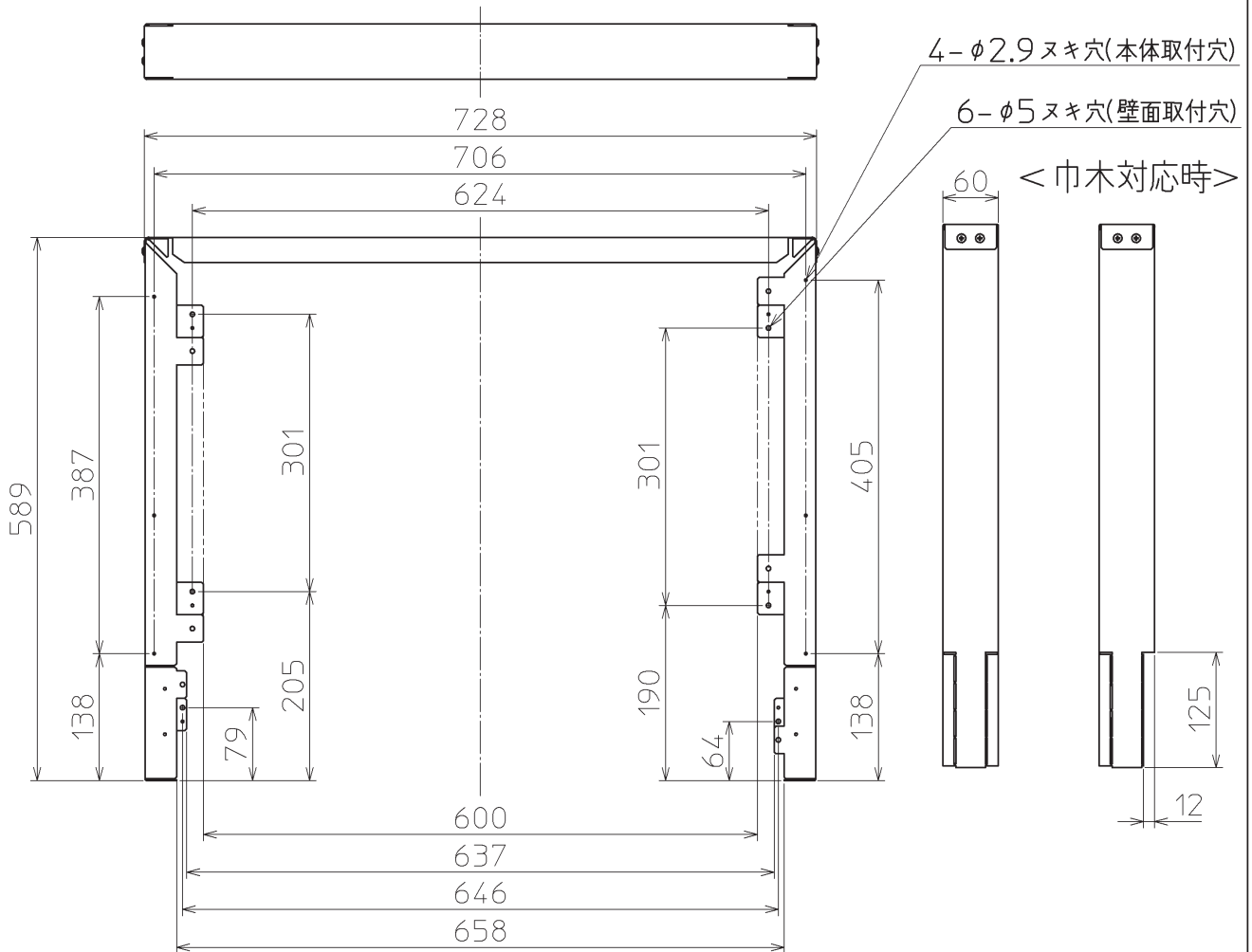
形名

MAC-316HP

## 1.仕様

項目	内容
外装	色(マンセルNo.) ブラック(N2)
	表面処理 アクリル塗装
	材質 SGCC(スチール)
質量	背面パネルのみ使用時: 1.6kg 背面パネルと置台併用時: 1.8kg
付属品	仕上用シール×2

## 2.外形図(背面パネルのみ使用時)



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

形名

MAC-316HP

三菱電機株式会社

第3角法  
単位:mm

作成日  
2014-5-13

図番

DK01B782

1/2 副番

# 三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

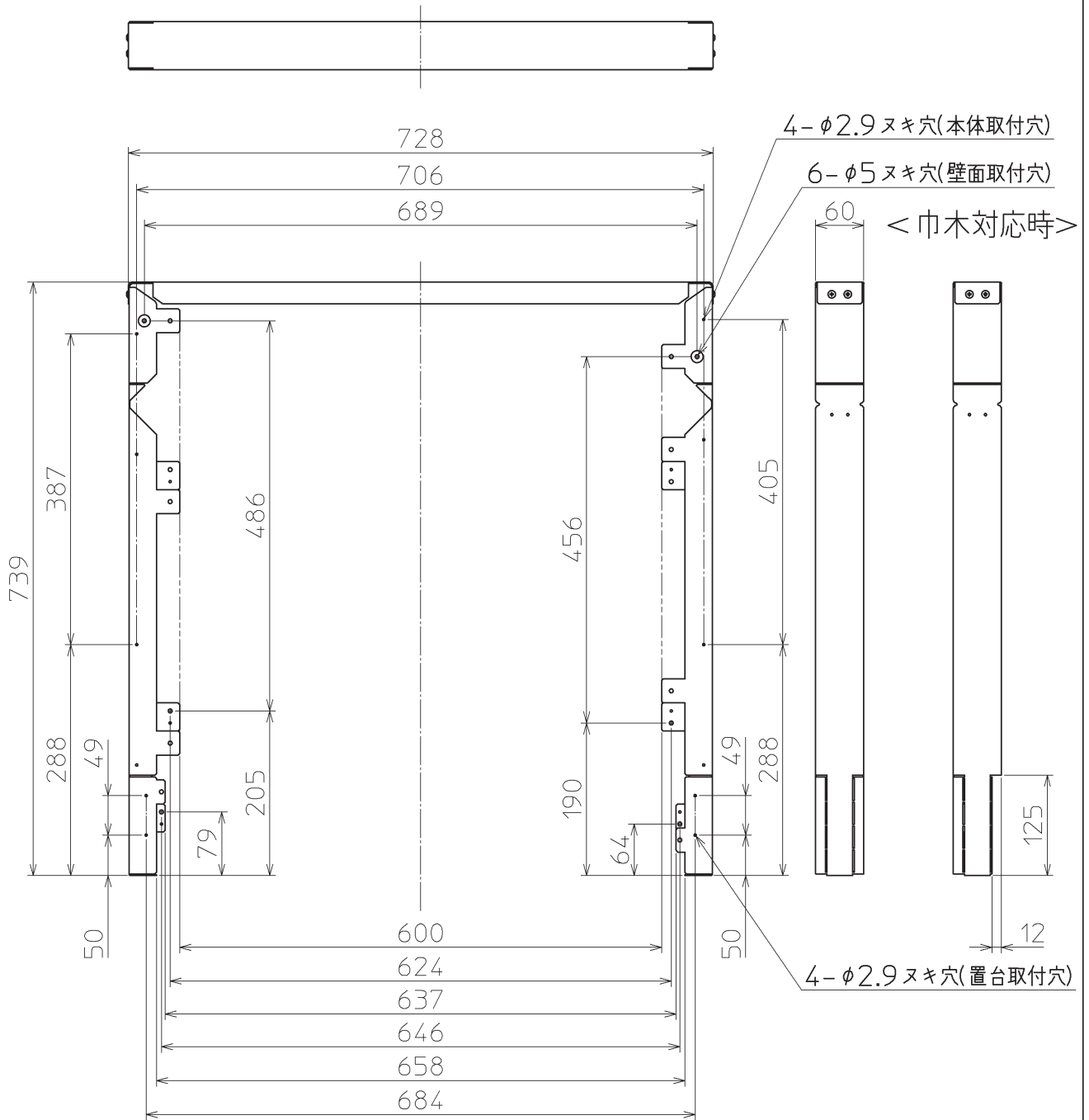
品名

背面パネル

形名

MAC-316HP

## 2.外形図(背面パネルと置台を併用時)



三菱電機ルームエアコン用別売部品仕様書

形名

MAC-316HP

三菱電機株式会社

第3角法  
単位:mm

作成日  
2014-5-13

図番

DK01B782

2/2 副番



三菱ハウジングエアコン 別売 背面パネル  
 形名 MAC-316HP  
**据付工事説明書** 販売店・工事店さま用

**用語集**

品名	形名	呼称
置台	MAC-311TD	置台
床置用ドレンアップメカ	MAC-862DM	ドレンアップメカ

- この背面パネルは床置形機種MFZ-K/HKシリーズ専用部品です。
- 本製品はクリーンヒータ等の給排気用の壁穴を再利用して据付ける際に、配管およびドレンホースを隠し、壁と室内ユニットとの間に生じる隙間を塞ぐための部品です。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。  
 据付工事前にこの据付工事説明書と室内ユニットの据付工事説明書を必ずお読みください。

**安全のために必ずお守りください**

- ご使用前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、この据付工事説明書をお客さまにお渡しください。

**警告** (誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの)

- 据付けは、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。  
 据付けには専門の知識と技術が必要です。  
 お客さま自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。  
 強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガなどの原因になります。
- 据付けは、据付工事説明書に従って確実に行う。  
 据付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。
- 据付時、安全のため、適切な保護具・工具を使用する。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。  
 当社指定部品を使用しないと、水漏れ・感電・火災・ユニットの落下によるケガの原因になります。

**注意** (誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの)

- 切断部のエッジはヤスリ等で処理する。  
 切断部のエッジによるケガの原因になります。

**使用部品**

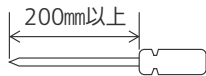
部品	① 背面パネル (上面用) 	② 背面パネル (右側面用) 	③ 背面パネル (左側面用) 	④ 背面パネル組立用ネジ  タッピングネジ (黒) 4×10
個数	1	1	1	4
部品	⑤ 室内ユニット固定用ネジ  タッピングネジ4×16	⑥ 置台固定用ネジ ※  タッピングネジ4×10	⑦ 背面パネル固定用ネジ  タッピングネジ4×25	⑧ 仕上用シール 
個数	4	4	4	2

※ 置台固定用ネジ⑥は、置台(別売部品)併用時に使用します。



## 使用工具

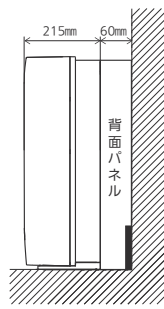
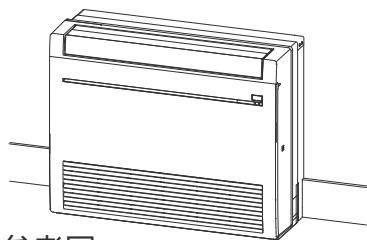
- a) 軸の長さ200mm以上の  
プラスドライバー    b) ニッパー    c) ヤスリ



## <完成図>

背面パネルのみを使用する場合

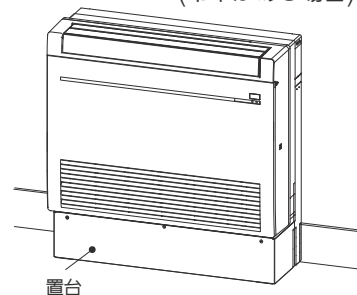
(巾木がある場合)



完成時の寸法

背面パネルと置台を併用する場合

(巾木がある場合)

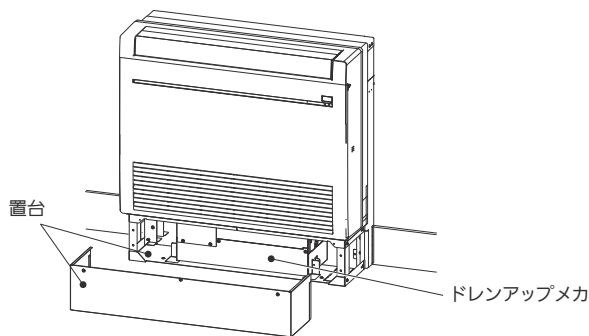


置台

## <参考図>

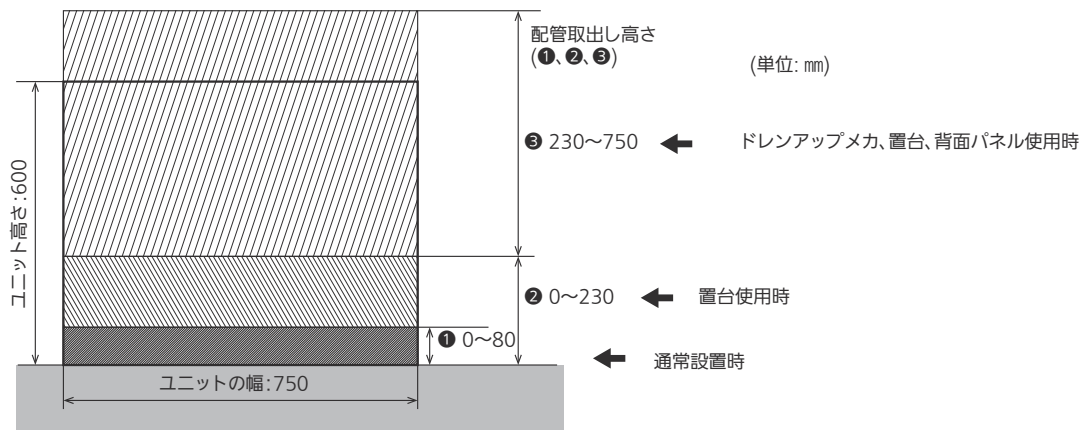
背面パネルと置台、ドレンアップメカを併用する場合

(巾木がある場合)



## 配管取出し可能範囲

- クリーンヒータからの置換え等により既設の壁穴を利用する場合は、ドレン水が確実に排水される条件に適合するかを確認してください。  
適合しない場合は、ドレン配管穴を別にあけるか、もしくは置台やドレンアップメカを使用してください。
- 既設の壁穴を使用しない場合、市販の壁穴塞ぎ部材等で塞いでください。
- 室内ユニットのドレン配管工事終了後、水を流して確実に排水されることを確認してください。



- 上図は配管取出しの可能な範囲です。(上図は室内ユニットを正面から見た図です) 取出し高さに応じて使用する別売部品が変わります。

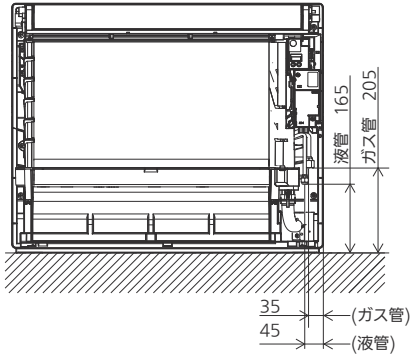


# 注意

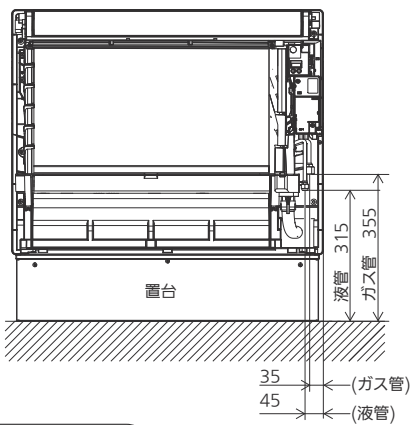
切断部のエッジはヤスリ等で処理してください。  
エッジによるケガの原因になります。

## 接続配管の位置

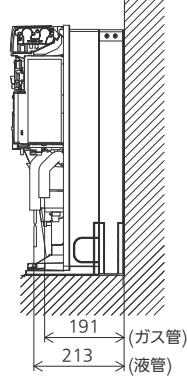
背面パネルのみを使用する場合



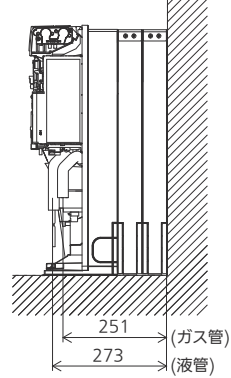
背面パネルと置台を併用する場合



<背面パネル1台使用時>

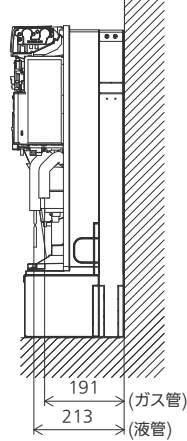


<背面パネル2台使用時>

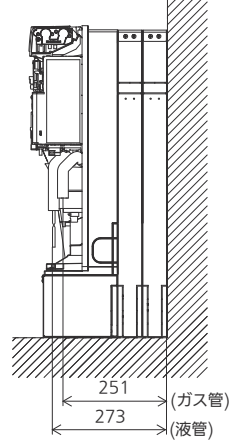


(単位: mm)

<背面パネル1台使用時>



<背面パネル2台使用時>



(単位: mm)

## 1 事前準備

### 1. 背面パネルの組み立て

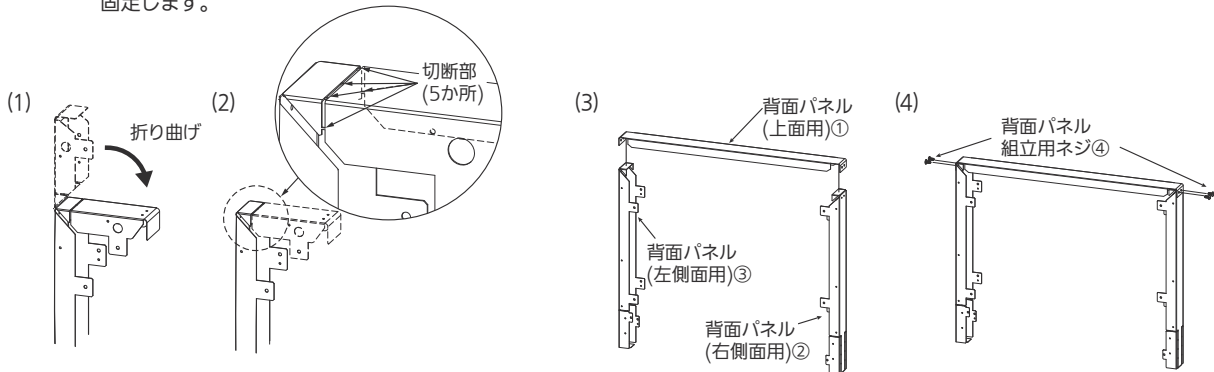
背面パネルのみを使用する場合

※据付場所に巾木がある場合は、後述の「巾木がある場合」を参照してください。

- (1) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③を切り込み部から90°折り曲げます。
- (2) それぞれの切断部5か所をニッパー等を使用して切断します。

※作業(2)の切断作業は、折り曲げ後に実施してください。切断後に折り曲げると、切り込み部を支点に曲げることができません。

- (3) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③に背面パネル(上面用)①を下図のように上からのせます。
- (4) 背面パネル(上面用)①と背面パネル(右側面用)②、背面パネル(左側面用)③を背面パネル組立用ネジ④で4か所固定します。

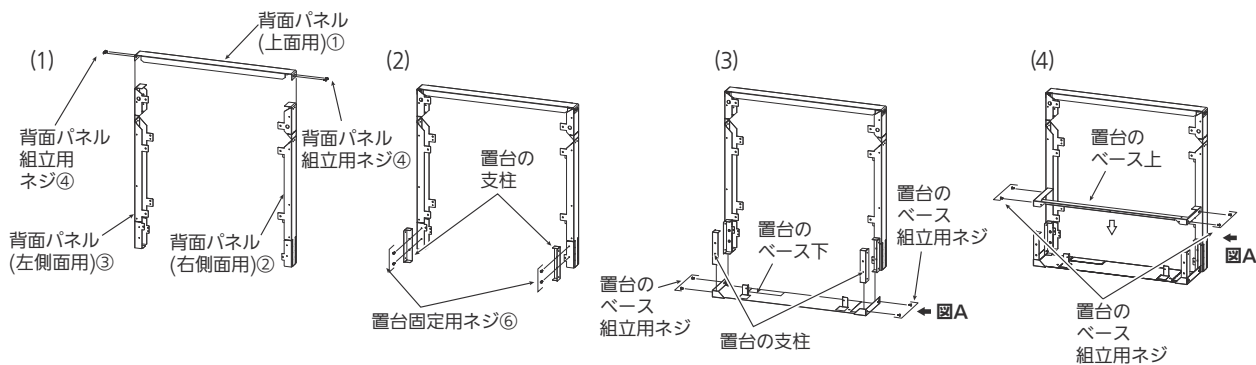




## 背面パネルと置台を併用する場合

※据付場所に巾木がある場合は、後述の「巾木がある場合」を参照してください。

- (1) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③に背面パネル(上面用)①を下図のように上からのせて、背面パネル組立用ネジ④で4か所固定します。
  - (2) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③に置台の支柱(置台の付属部品)2つを置台固定用ネジ⑥で4か所固定します。
- ※作業(2)からは、置台の据付工事説明書も参照してください。
- (3) 上記(2)と置台の支柱2つ、置台のベース下を下図のように組立て、置台のベース組立用ネジ(置台の付属部品)で4か所固定します。
  - (4) 上記(3)と置台のベース上を下図のように組立て、置台のベース組立用ネジ(置台の付属部品)で4か所固定します。



お願い 置台の奥側支柱を固定するベース組立用ネジは、↓のネジ穴を使用してください。

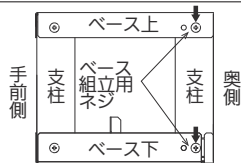
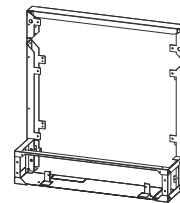


図 A (ネジ固定位置)

<完成図>

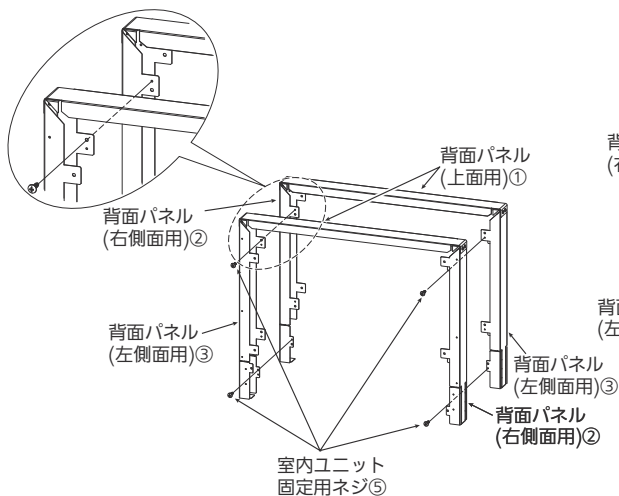


## 背面パネルを2組使用する場合 (背面の配管取り回しスペースが広がります)

- ※据付場所に巾木がある場合は、後述の「巾木がある場合」を参照してください。  
 ※背面パネル(右側面用)②同士、または背面パネル(左側面用)③同士は固定できません。

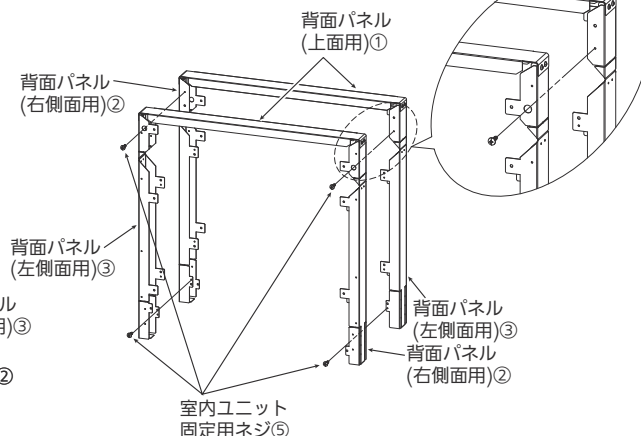
## 背面パネルのみ使用する場合

- (1) 背面パネルを2組、組み立てます。(前述の①事前準備、背面パネルのみを使用する場合を参照)
- (2) 突起に穴が二つある側の面同士を合わせて室内ユニット固定用ネジ⑤で下図の位置に4か所固定します。



## 背面パネルと置台を併用する場合

- (1) 背面パネルを2組、組み立てます。(前述の①事前準備、背面パネルと置台を併用する場合の作業(1)と(2)を参照)
- (2) 突起に穴が二つある側の面同士を合わせて室内ユニット固定用ネジ⑤で下図の位置に4か所固定します。
- (3) 置台のベースを取付けます。(前述の①事前準備、背面パネルと置台を併用する場合の(3)~(4)を参照)



裏面へつづく 4



# 注意

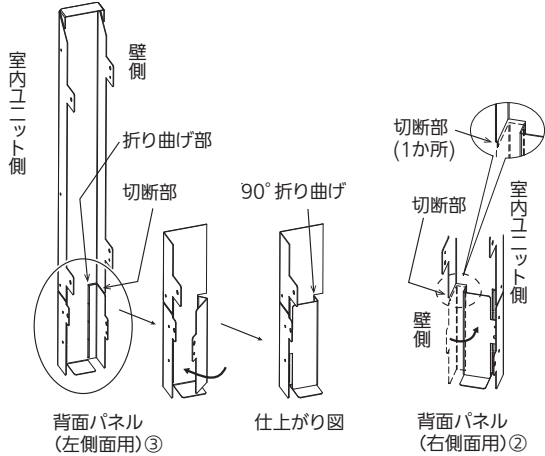
切断部のエッジはヤスリ等で処理してください。  
エッジによるケガの原因になります。

巾木がある場合

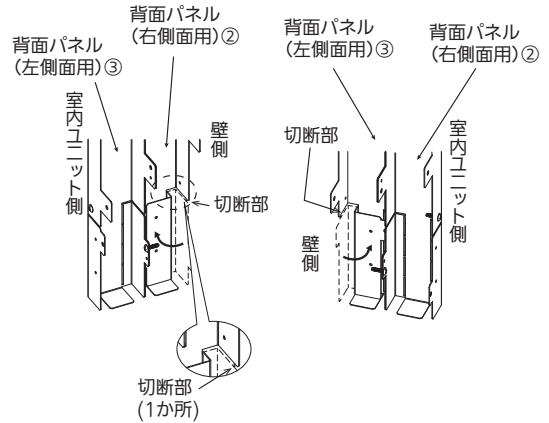
(巾木を避けて据付けることができます)

- (1) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③の下部にある壁側のそれぞれの切断部1か所をニッパー等で切断し、折り曲げ部を支点に90° 折り曲げます。

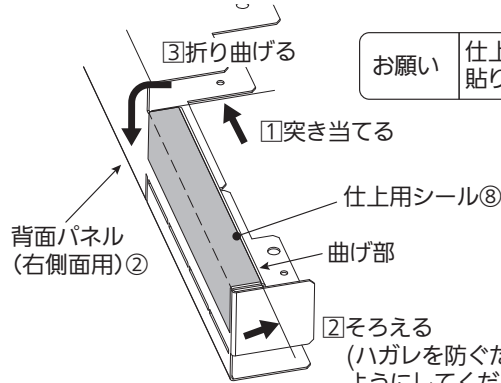
背面パネルを1組使用する場合



背面パネルを2組使用する場合



- (2) 背面パネル(右側面用)②と背面パネル(左側面用)③の折り曲げ部に仕上用シール⑧を下図のように貼ります。



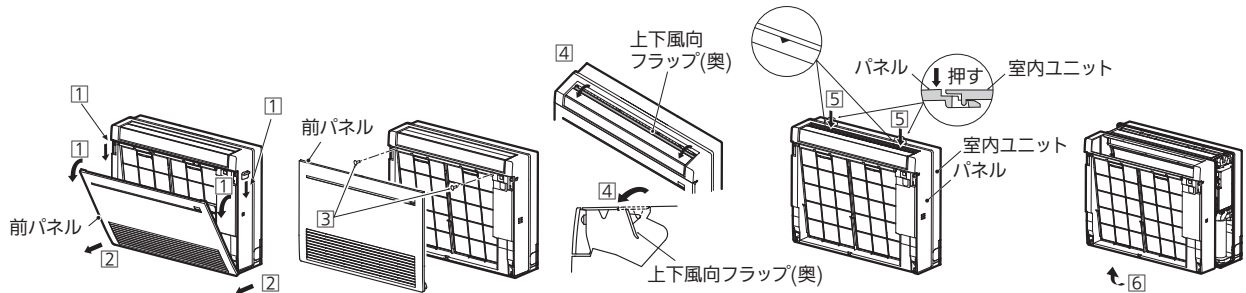
お願い 仕上用シール⑧がしわにならないように貼り付けてください。

(ハガレを防ぐため曲げ部にかからないようにしてください)

## 2. 前パネル、パネルの取外し

室内ユニットの前パネルとパネルを①～⑥の手順で取外します。

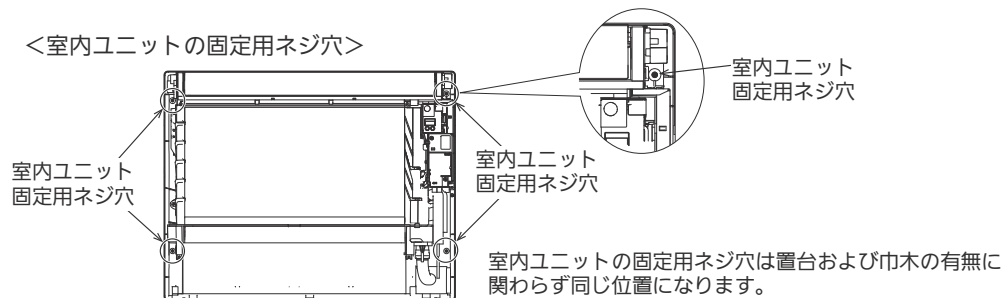
- ①パネル左右側面にあるツマミを下げながら前パネルを手前に開いてください。
- ②前パネルを外してください。
- ③2本のネジを取り外してください。
- ④上下風向フラップ(奥)を開いてください。
- ⑤パネルの上面2か所(▼マーク部分)を押し、パネルの上側を外して手前に引いてください。
- ⑥パネルを上を持ち上げながら、外してください。



## 2 背面パネルの固定

- 背面パネルを1組または2組使用した場合、巾木がある、巾木がない場合で、壁面へのネジ位置が異なりますので注意してください。
- 背面パネルを位置決めする際は、必ず室内ユニットを仮止めした状態で行ってください。

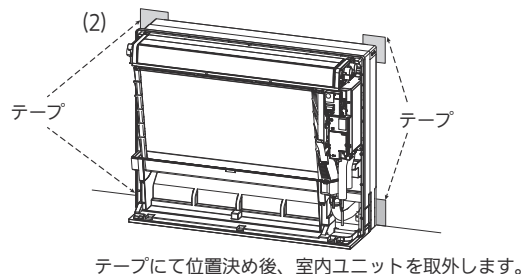
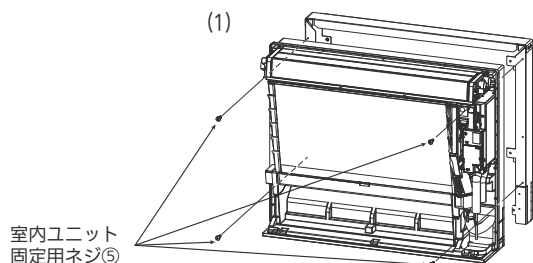
<室内ユニットの固定用ネジ穴>



### 背面パネルのみを使用する場合

- (1) プラスドライバー（軸の長さ200mm以上）を使い、室内ユニットに背面パネルを室内ユニット固定用ネジ⑤で4か所仮固定します。
- (2) 室内ユニットを背面パネルと仮固定した状態で据付場所に設置し、壁にテープ等で位置決めをします。

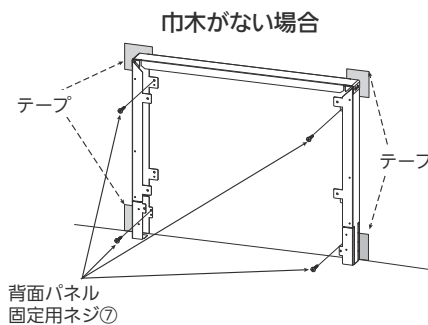
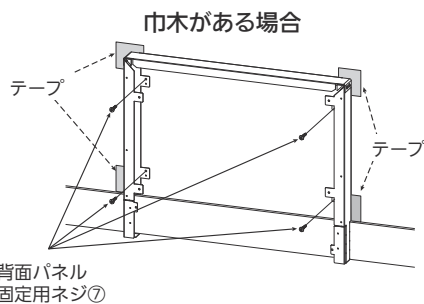
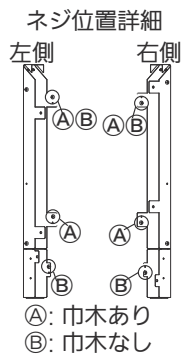
お願い 水準器等で、背面パネルが垂直・水平に設置されているか確認をしてください。



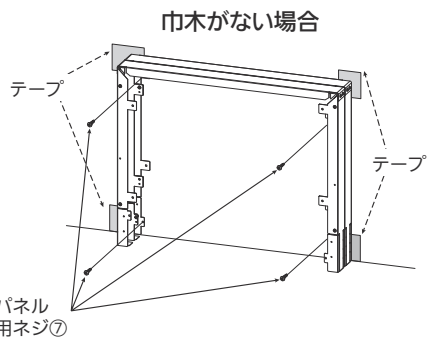
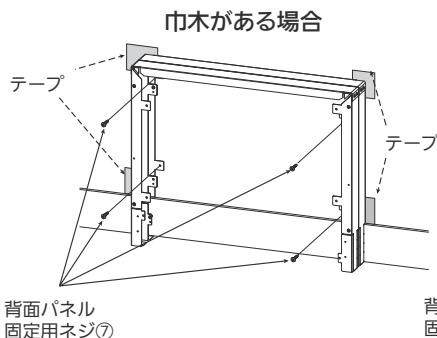
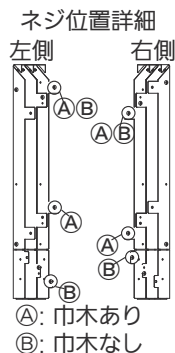
テープにて位置決め後、室内ユニットを取外します。

- (3) 室内ユニットを取外し、背面パネルを背面パネル固定用ネジ⑦で4か所、壁に固定します。

### 背面パネルのみを1組使用する場合のネジ位置

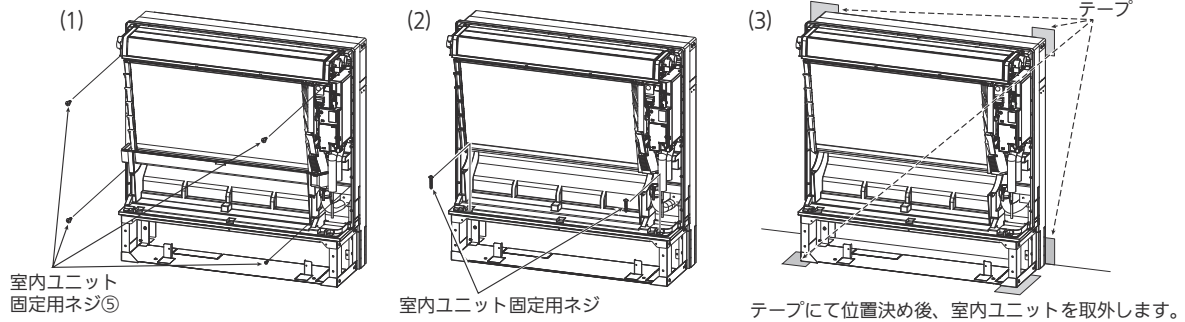


### 背面パネルのみを2組使用する場合のネジの位置



### 背面パネルと置台を併用する場合

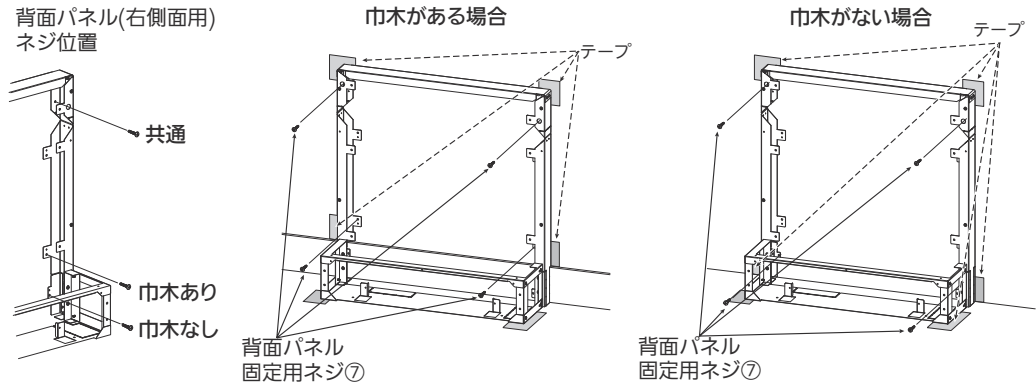
- (1) プラスドライバー(軸の長さ200mm以上)を使い、室内ユニットに背面パネルを室内ユニット固定用ネジ⑤で4か所仮固定します。
- (2) 室内ユニットを置台の室内ユニット固定用ネジ(置台の付属部品)で置台に仮固定します。
- (3) 室内ユニットを背面パネルおよび置台と仮固定した状態で据付場所に設置し、壁と床にテープ等で位置決めをします。



- (4) 室内ユニットを取外し、背面パネルを背面パネル固定用ネジ⑦で4か所、壁に固定します。

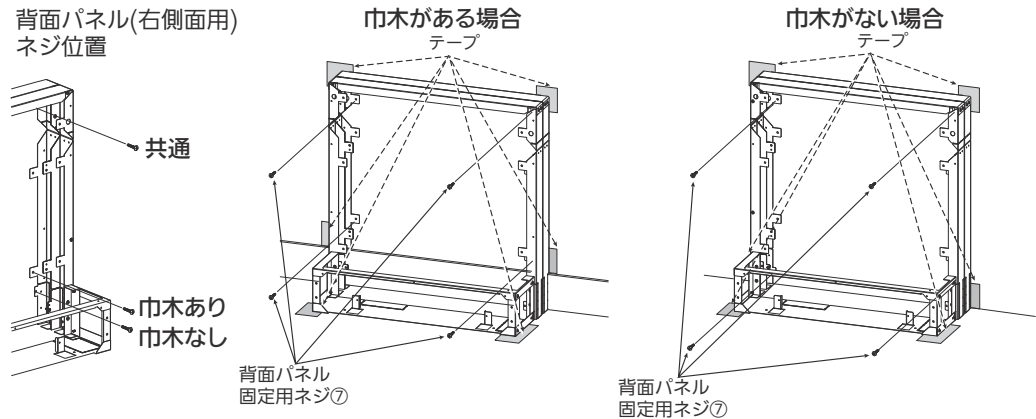
#### 背面パネル1組と置台を併用する場合のネジ位置

背面パネル(右側面用)  
ネジ位置

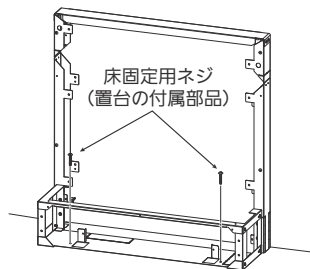


#### 背面パネル2組と置台を併用する場合のネジ位置

背面パネル(右側面用)  
ネジ位置

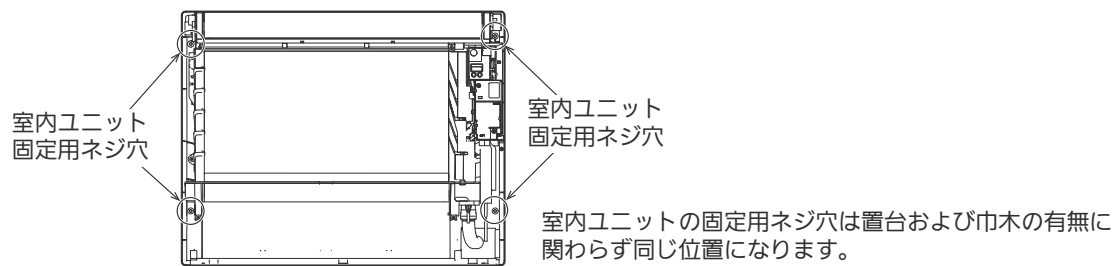


- (5) 置台を床固定用ネジ(置台の付属部品)で2か所を床に固定します。



### 3 室内ユニットの固定

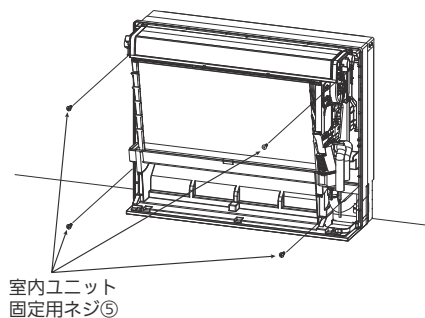
<室内ユニットの固定用ネジ穴>



#### 背面パネルのみを使用する場合

プラスドライバー(軸の長さ200mm以上)を使い、室内ユニットに背面パネルを室内ユニット固定用ネジ⑤で4か所固定します。

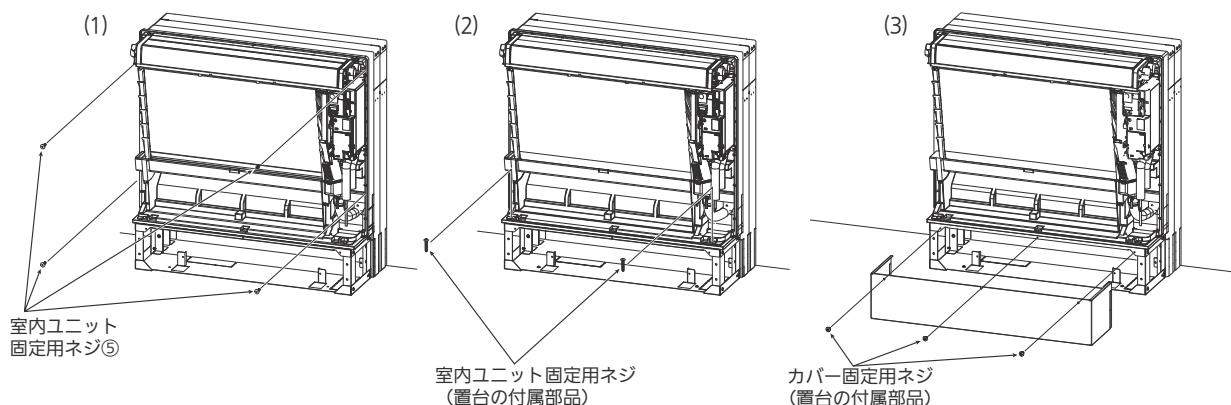
- 背面パネルを1組使用する場合、置台固定用ネジ⑥が4本余ります。
- 背面パネルを2組使用する場合、置台固定用ネジ⑥が8本余ります。



#### 背面パネルと置台を併用する場合

- (1) プラスドライバー(軸の長さ200mm以上)を使い、室内ユニットに背面パネルを室内ユニット固定用ネジ⑤で4か所固定します。
- (2) 室内ユニットを置台の室内ユニット固定用ネジ(置台の付属部品)で2か所固定します。  
※作業(2)からは、置台の据付工事説明書も参照してください。
- (3) 置台のカバーを置台のベース上に置台のカバー固定用ネジで3か所固定します。  
※作業(3)では置台のカバーの左右にあるフックが奥側の支柱を挟むように奥側へ押ししてください。

- 背面パネルを2組使用した場合は、置台固定用ネジ⑥が4本余ります。



**お願い**

この後の据付作業などについては室内ユニットの据付工事説明書に従い作業してください。